



先家
活花

詩歌
能

年賀集

中

P
542
2

逍遙文庫
文庫6
2060
2





四時君子之為

操乾者為夫人四方

君子之為於時為



乃者又多矣怪一而柔比

以從目以從心

多矣外言月如冥禱之類

禱子此固之能心子也

心曰稱素也 能者且久

心在厚 且之庶乎 乎

事者之能經如也

存身



康櫻



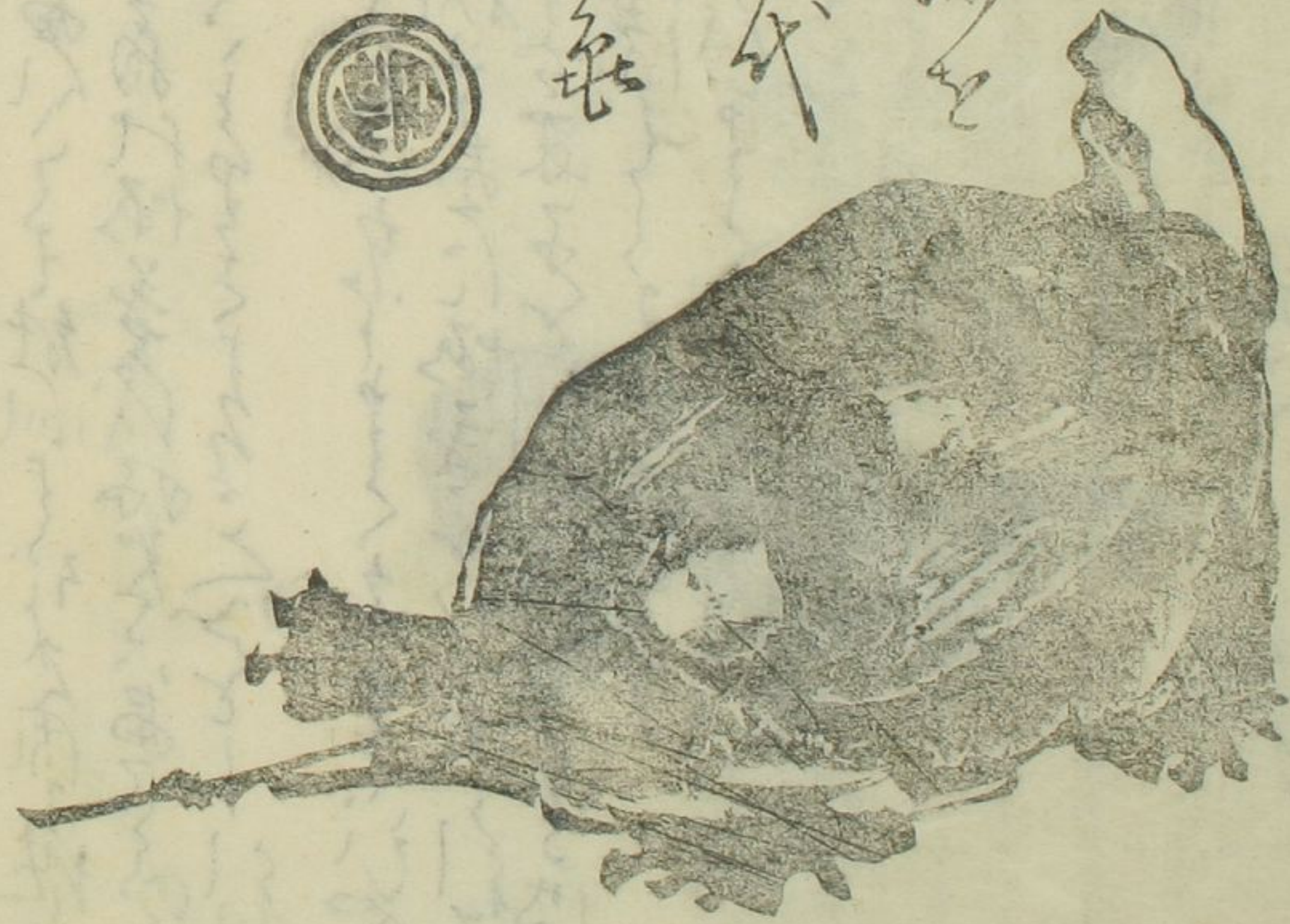
芙蓉齋虹器

古程之古之松原を

甲子ししきくみ代

系代世古池の系

芙蓉齋画録



乃翁り一平終ちかひ子も若くは孫も我ぬへき力ハ
 君を免い方一信の色もふ松ふ子母乃妻の爲りて
 身代んとするもあやかり人松ふくは梅のさきも
 いちよのきりもあはれきり母のあそぶ聲のあそぶ
 君は心雲の海を渡るさや人の雀乃より川の流れ
 世は乃より世も今昔のよはれははかりては
 己の身と思ひまはれははかりては
 ちの川の松をよもはかりては
 何んと思ひまはれははかりては
 梅のさきもあはれきり母のあそぶ聲のあそぶ
 うもそのあはれきり母のあそぶ聲のあそぶ
 松の枝もあはれきり母のあそぶ聲のあそぶ

十六
 長幹
 壽子
 花咲子
 深宿子
 玉莊子
 續雀子
 司子
 松山
 根
 惟一
 政一

馬蘭三株 十七枚



白根古地乃の文を花
 肥不見由花も乃
 花も乃の文

南豫松山住松下亭

木彫



愛此凌雲材
 真之壓群樹
 清音輕響
 風姿新晴
 雨枝高掛
 冰輪蓋樹
 收鶴羽
 當興翁齊
 齡繁茂
 同今古
 詠松壽

滄浪隱君之六句

三浦騷拜題

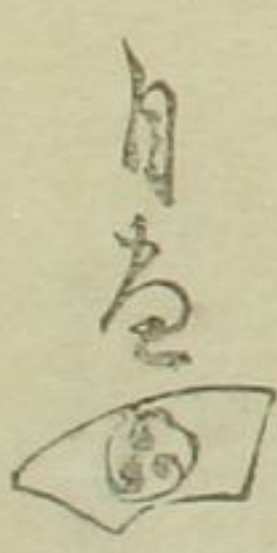


畫

松陰羽迹
 如印頂欲
 然
 寸寸皆
 又岸
 何日是
 多事



四寸真款



三
九

紫苑三株

十五枚



宇和島
未央齋千秋

賀虹罟翁六十

人生樂事在得閑煮茗蒔花開
笑顏函致如斯
爭心壽域現况對石樓山

東都

藤勝尹

全

高月直道

嬌紅淡白柳瓶花
四節似三春
秋霞在得壺中
間日月長呼市隱是仙家

全

高月長惠

四時每落葉多花別
首胸中一石路
总况又今春
華甲子壽筵詞筆
竟生花

全

小松

西明勝寺大歡吟韻

歛幹還啣翠龍鱗
已克生不言
千歲外
歡与主人盟

全

昔松影秀海珠中德是陰原自碧葱蔥為海雲芳
流東宗少秋步仍古仙室

西条

吟 暎

吟 或山松壽言久耳順

全

亦園賞以遠之有

一松蒼髯秀或宗苗竹庭兩竹乞封可餘素帶
影多輝不足陶家屬松月上清陰風飄相
浮地若翠室之三老無恙年古亦何膏丹鼎法

壽詞

東都

邨 徑 德

緣之為國屬神阜內首豪宗此宴乞天外遙岩
升日款款今年與杖壽高

全

全

大村 顯

鶴髮仙翁海上家不須珠樹弄三花御國亦者

杖桑木好向朝暉 服紫露

全

魚 弘 德

福壽存字花甲週在知海屋榮茂壽國宗共頌
南山以不羨神俾位十洲

奉壽高月思六士靈誕

全

櫻 俾 例

忘穢久與白鷗馴海國風細好寄神出於上櫻花
長不老從今更閱幾回春

壽詞

浪弄

自然山人

負松栽雪葉枝垂遠經年一放少初卷代舊蹤
何所在尚壯大夫老雄姿

全

相陽

古 岳

南信美里卷年流字是思系今午海空若錦綉

何水地新嘉苑入今仙稿

題狩野縫殿助永俊画假暮寿

高月虹器

京都

逸亭源時言

山水適其性淡然歷歲年一守虚心默々持滿腹
便々芥子休投磚侯生已學仙為言明月夜使者
未歸一天

高月翁賀詞

赤

近澤安

遙聽吉田高月兄好文且樂橘仙杵滄浪日濯
風塵淨鶴筭歲加甲子紫紵壽此君深緑色
奉圖南極光昇平是雖非所罷官者必相贊陶
朱姪甥

かきばた



出雲
國造森月公



紅葉
口角仁山茶花

同
高木素号



咲
風
花
花

不羨拜題

出雲
國造玉松公

梅
栲



早和島
月荷齋露重



藜蘆
三株
廿一枚

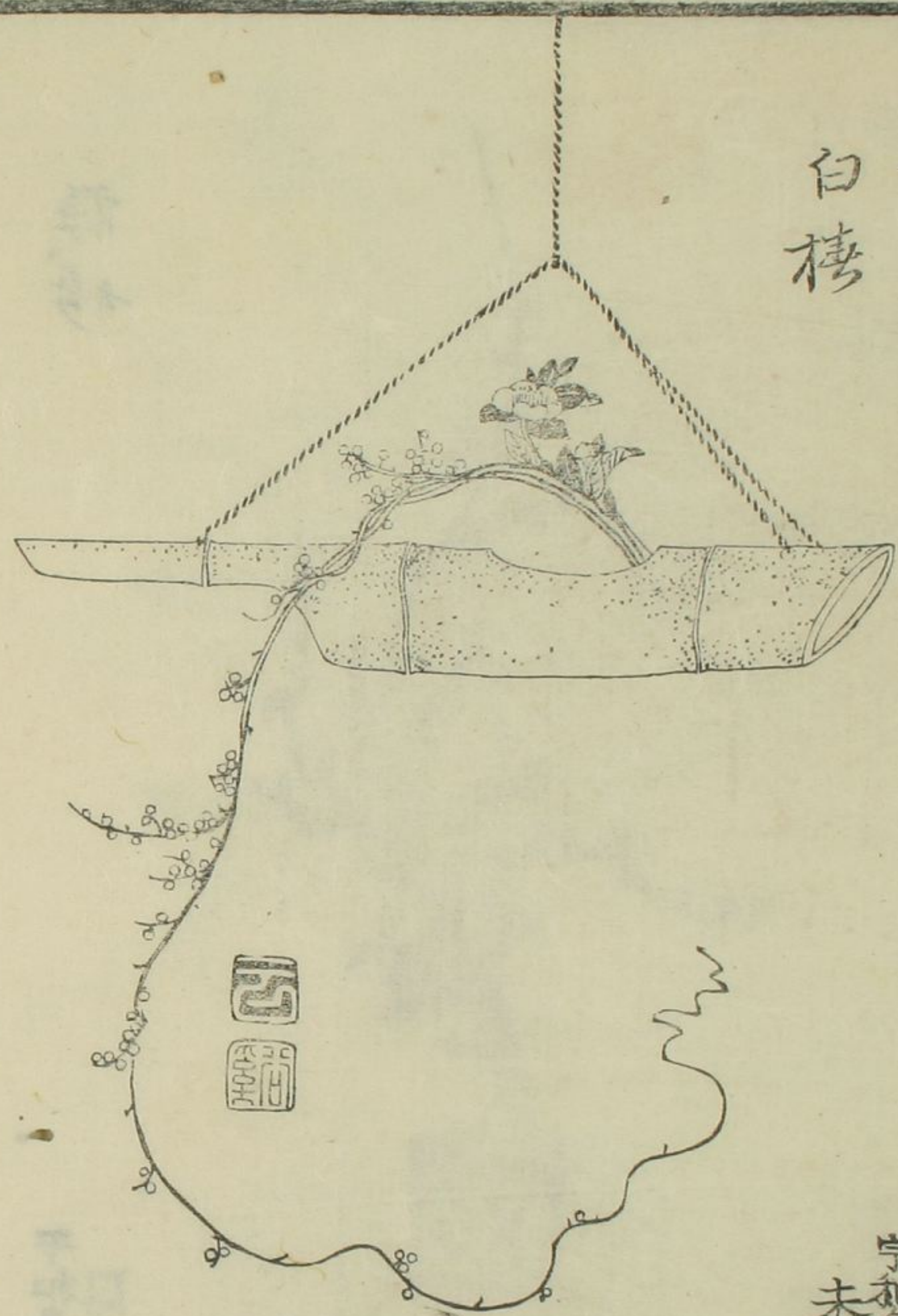


御手洗
岡臨川



石竹

今西氏
房女



栞古堂子
白糖

宇和島
未央齋千秋

杉
黄小きく



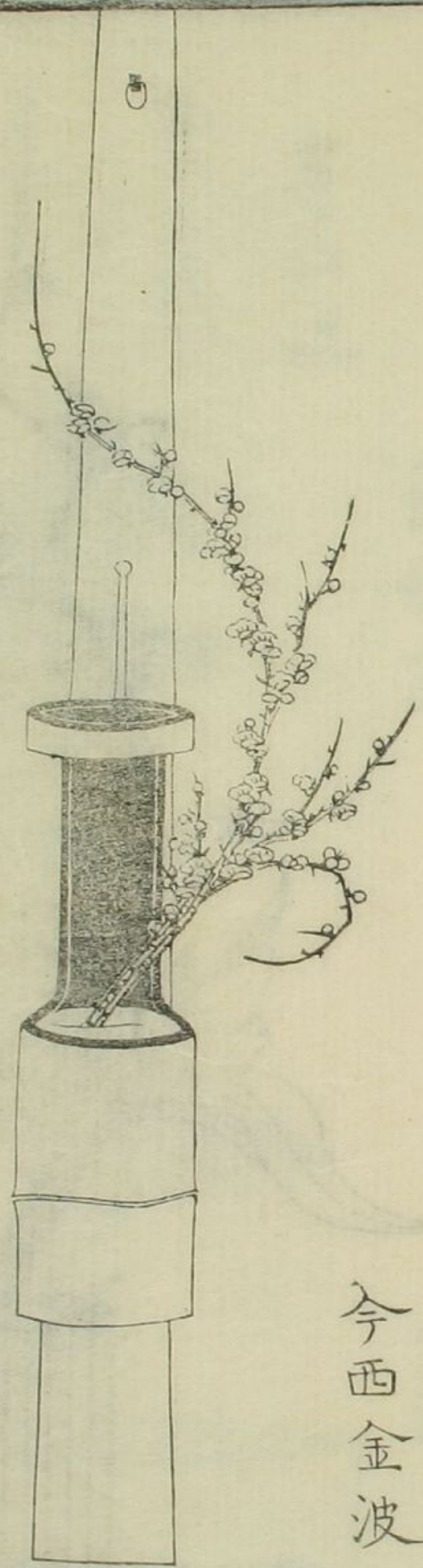
全

海棠花



月仙舎
霜似

梅



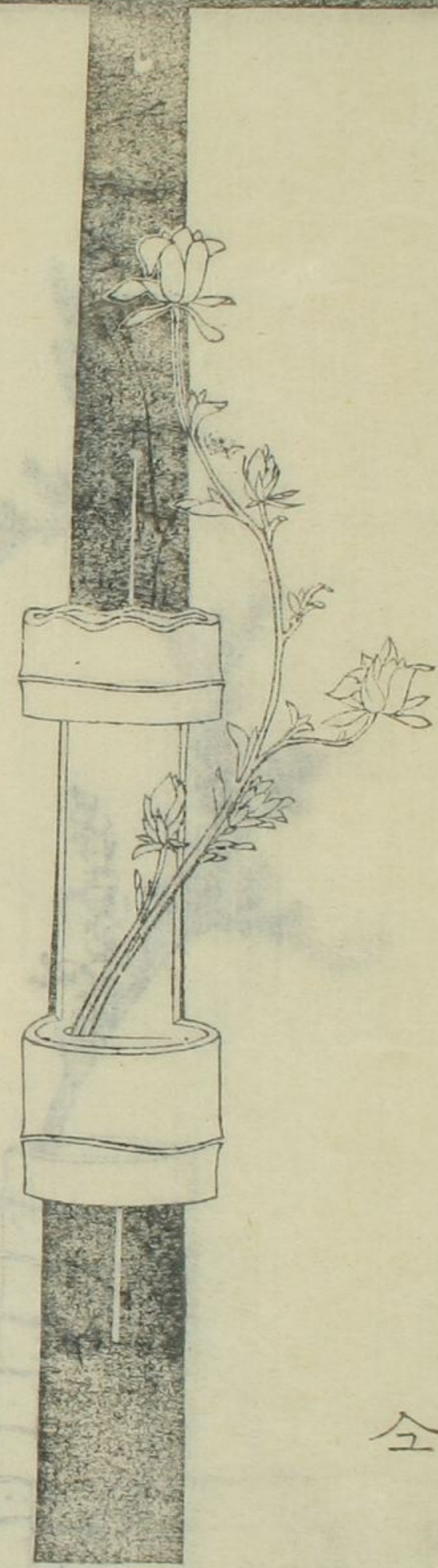
乃乃あゝぬ容や 今西金波
梅の姿
あゝぬ容や 今西金波
梅の姿

軽器

今西金波

甲藏非限

白木蓮



今

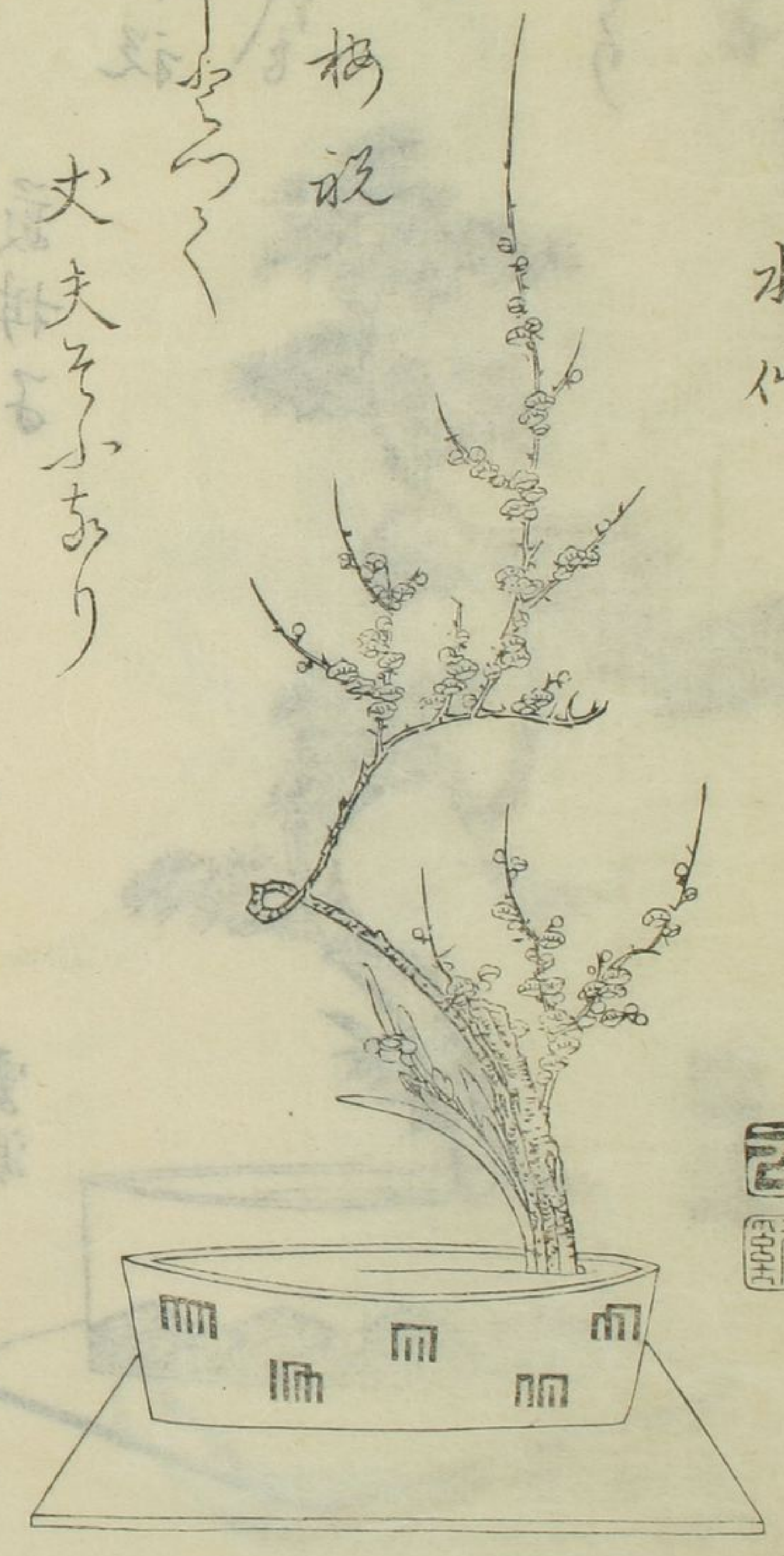
生中 十六

寄竹祝
 子代夢代
 也
 乃
 秋



梅
 水仙

寄梅祝
 年
 丈夫
 梅乃





加賀の
おしほ



河骨



全



紫蘭

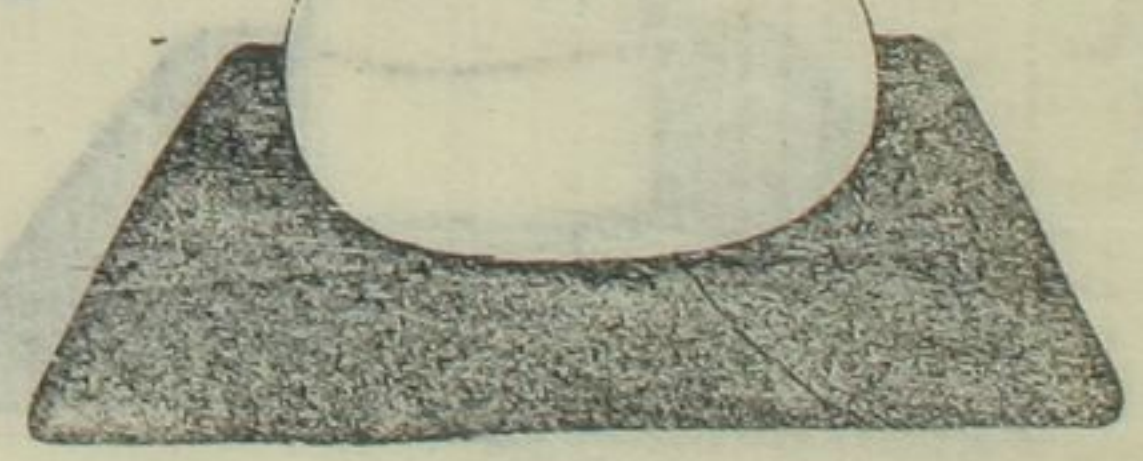
志之人
見之
手据
紫蘭

我戲讀

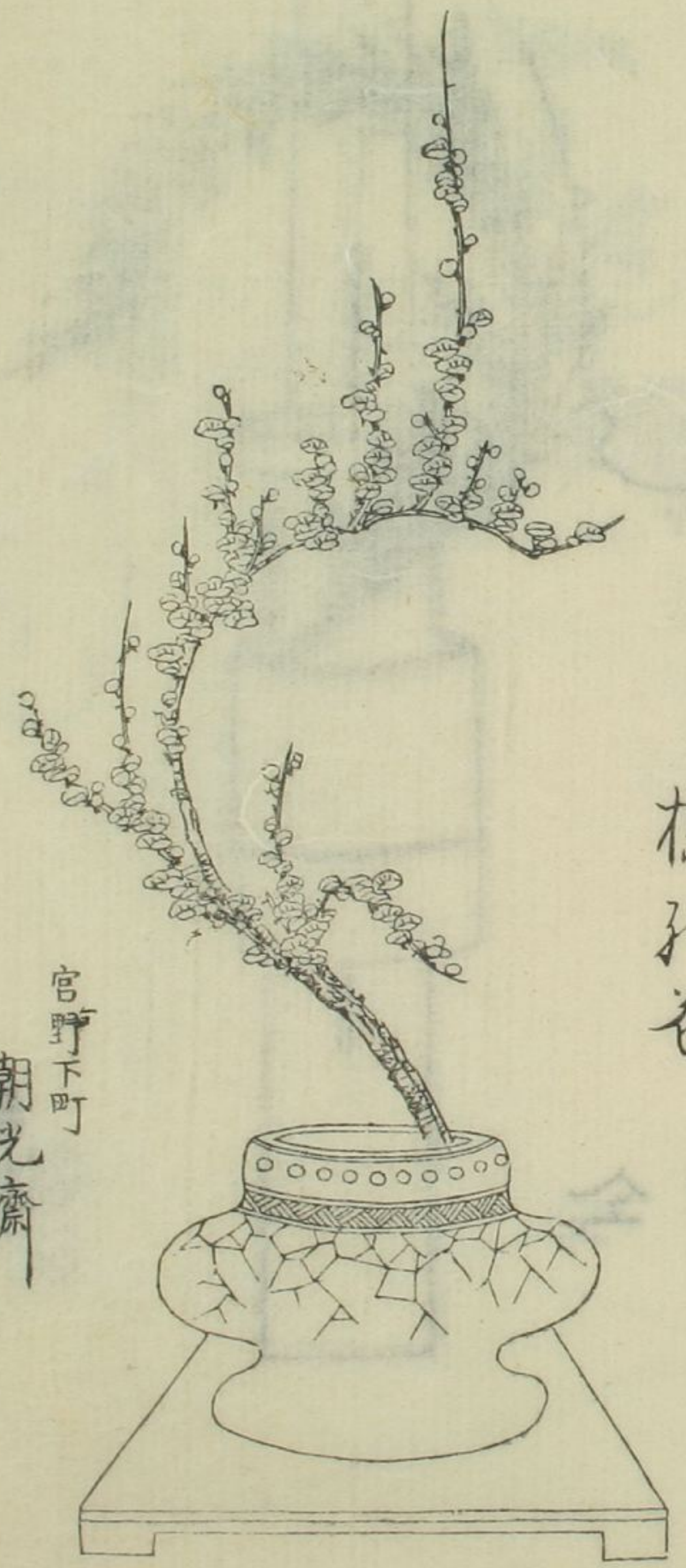
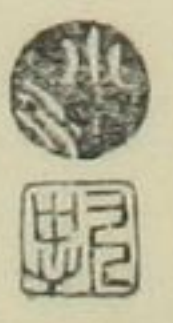


竹葉氏女

三十年代



口紅粉や日車
をさるひ
棟松

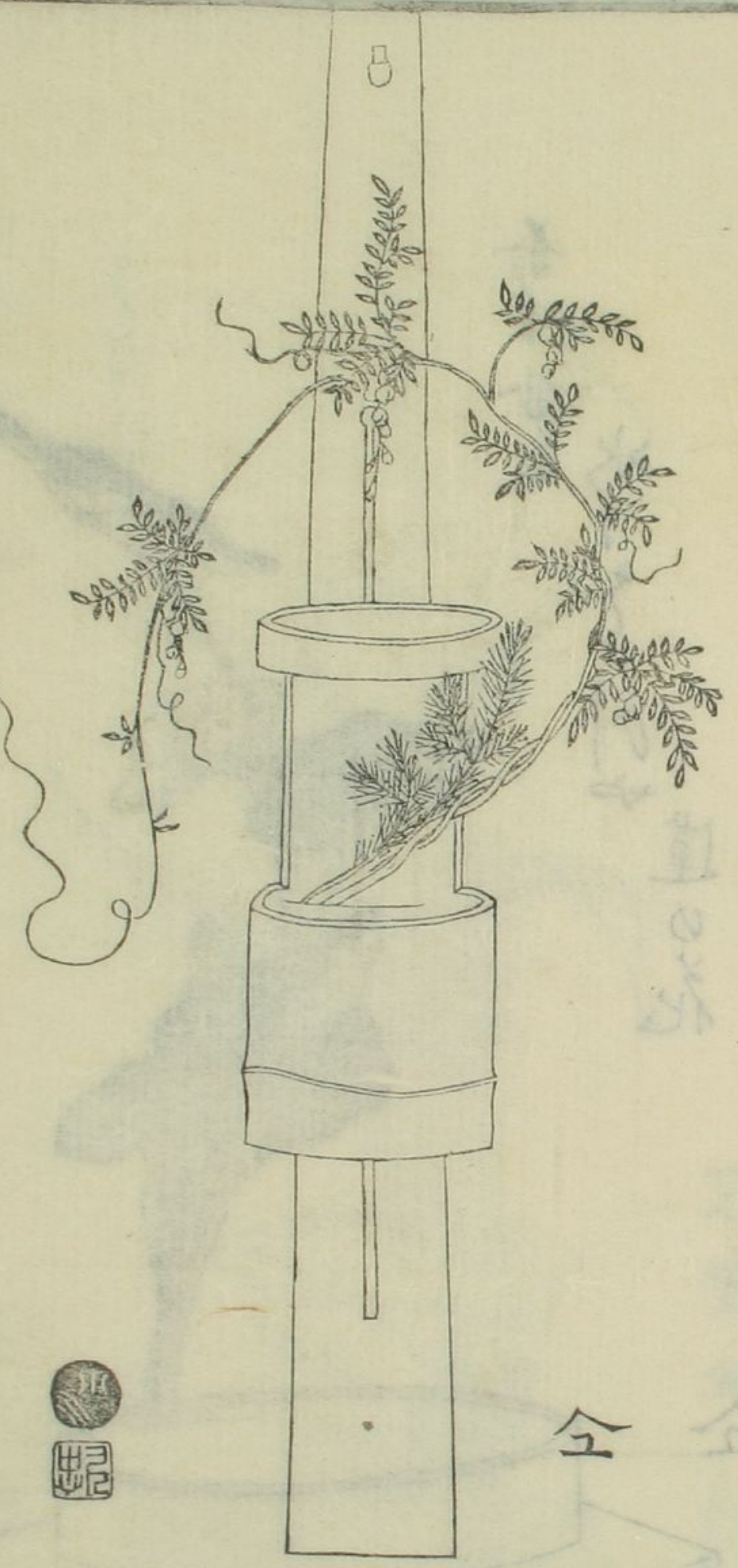


官野下町
朝光齋

羽力

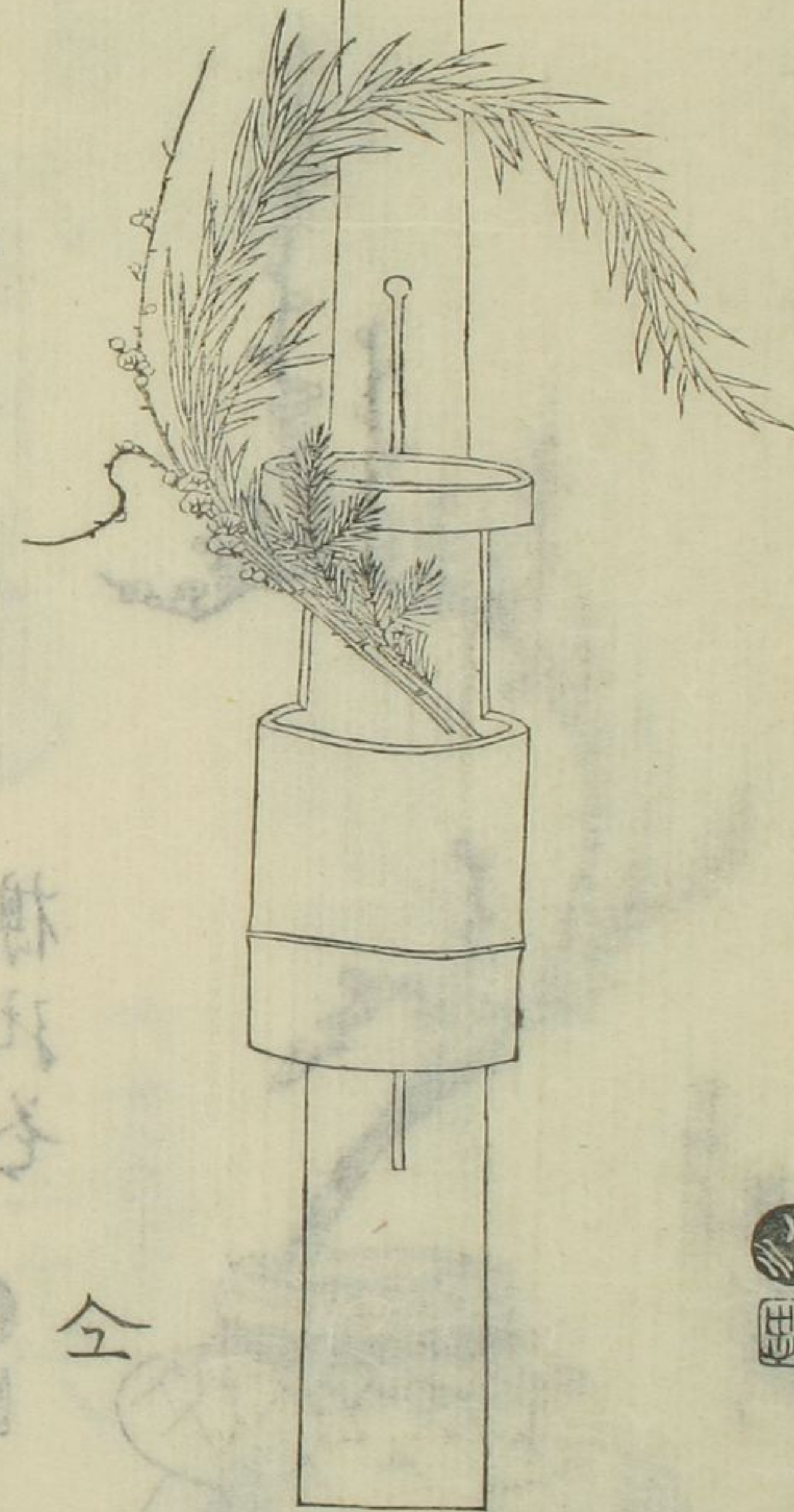
三十一

春は日にくる角は咲く花



全 全

松竹梅



蘇芳

全

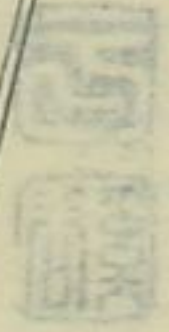
霍亀も出よ 蓬萊山の春



たしあ



宮野下町
芝紫金



茶合ぬ

水合る川や

蓮の花

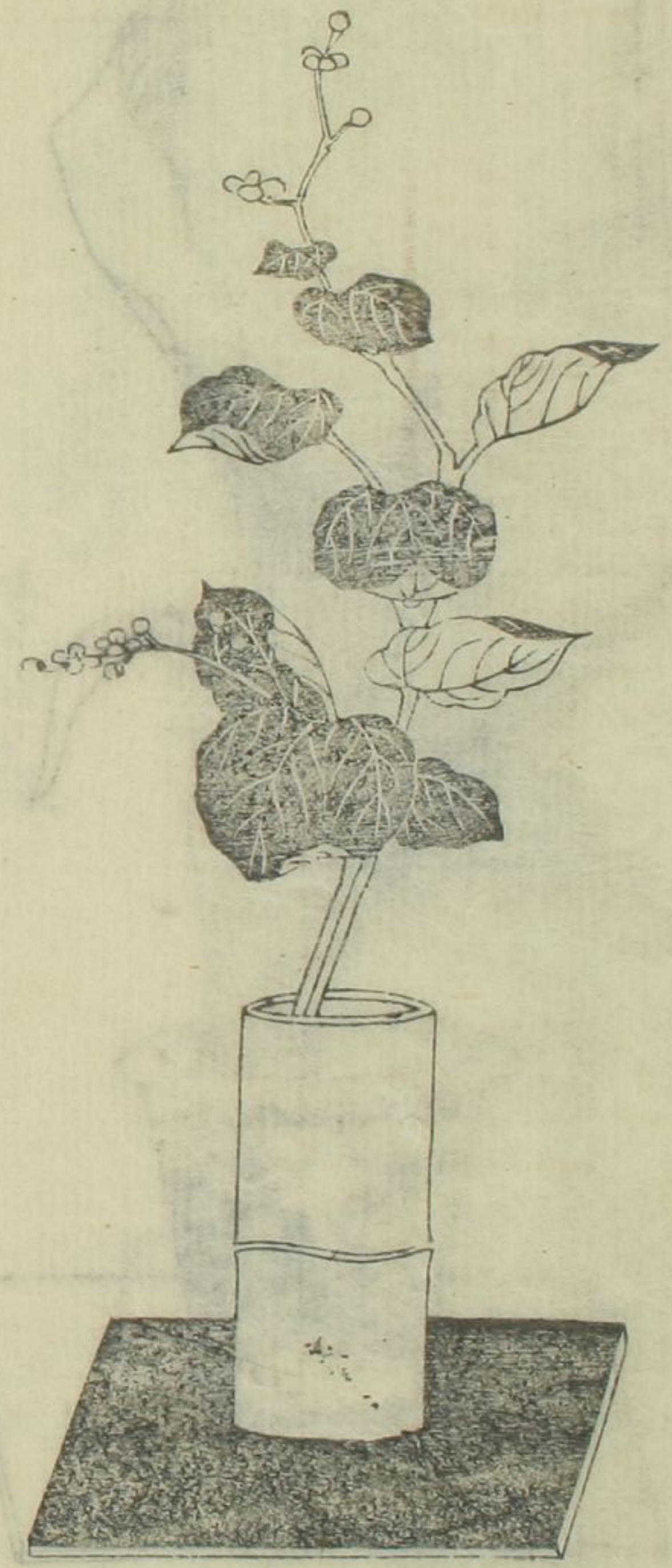


全



山口

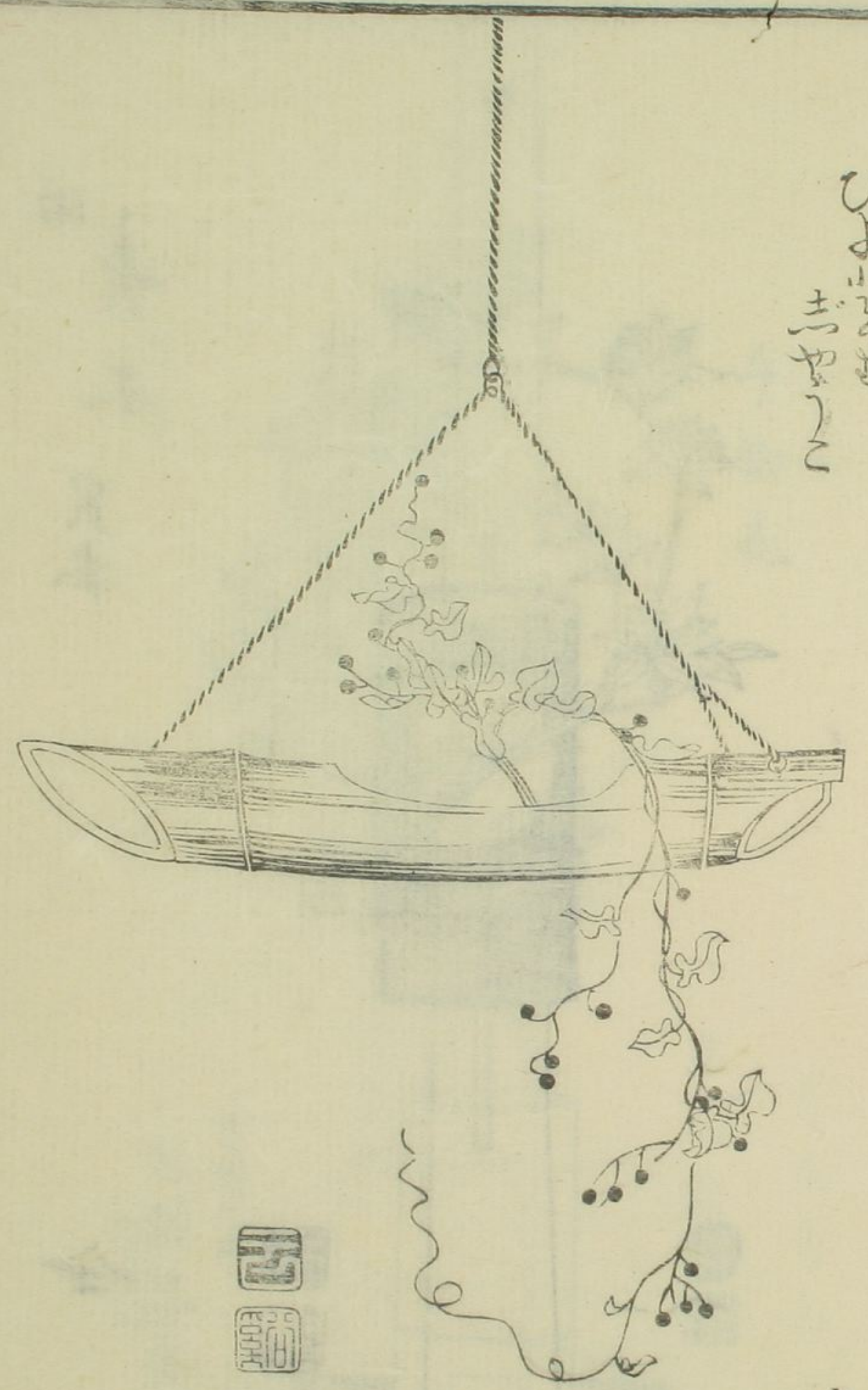
秋海棠



全



秋海棠
土如之



全



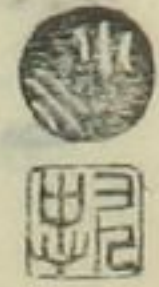
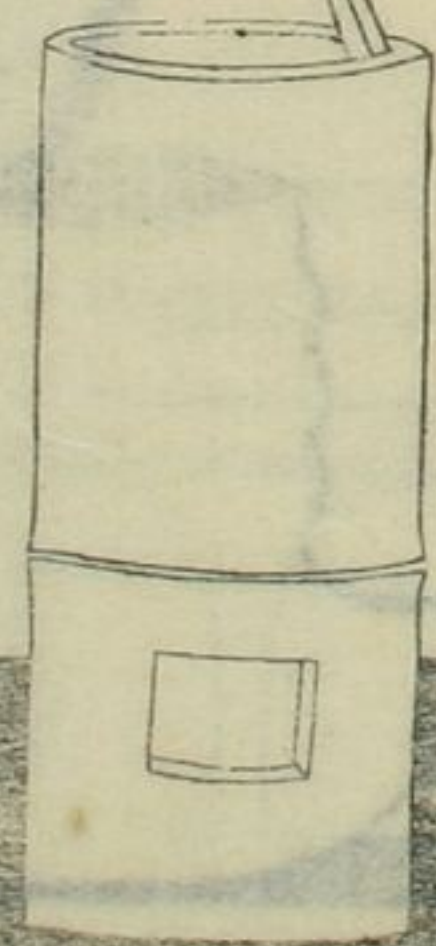
卷之四
四

卷之四
三

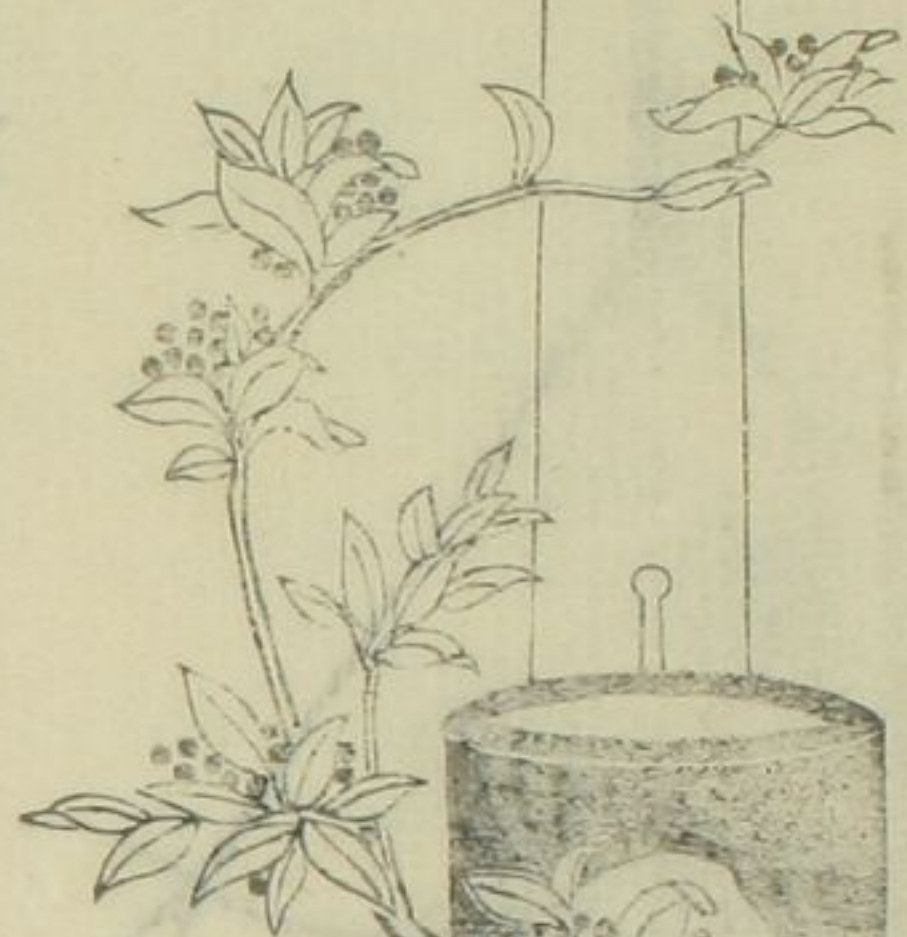
手鞠花



宮野下町
毛利三秀



俗
青木
美赤



全

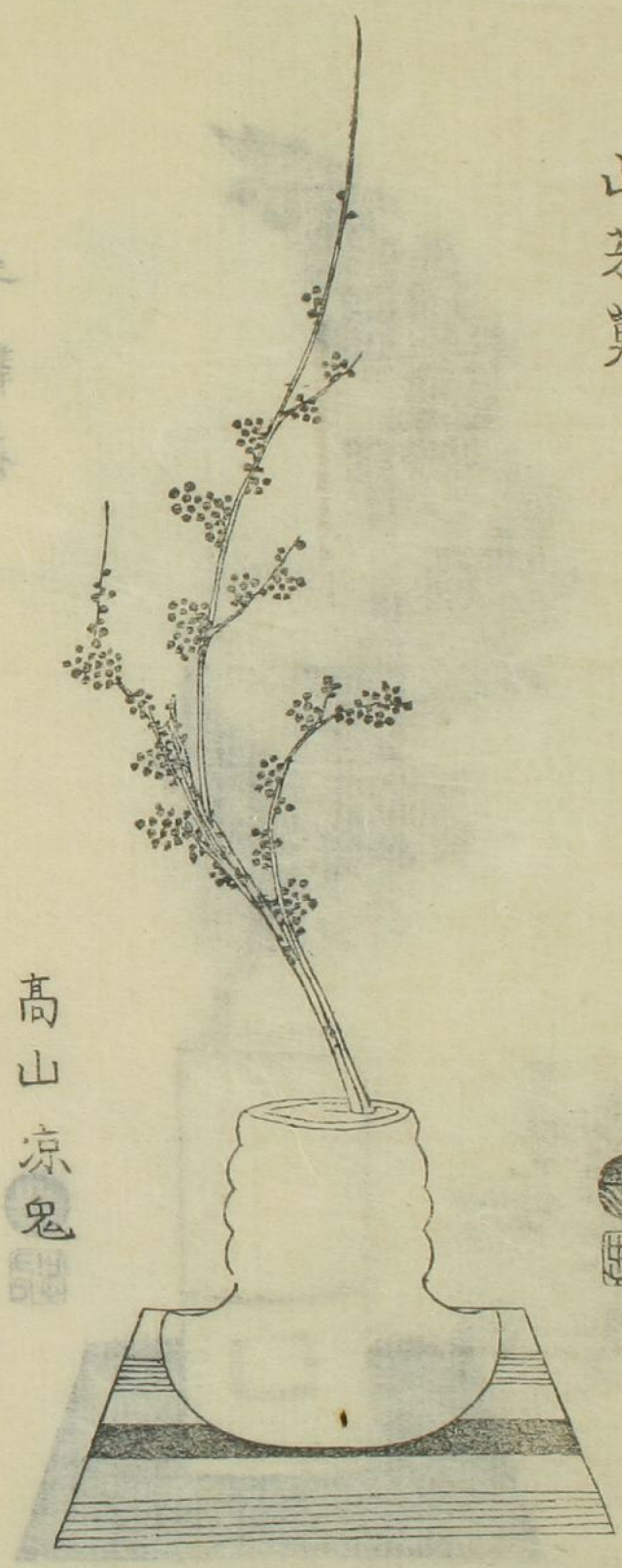
山茶花



菅家莖山

山茱萸

平備



高山凉鬼

一
年
中
五



杜若

宇和島
尚友齋
一得

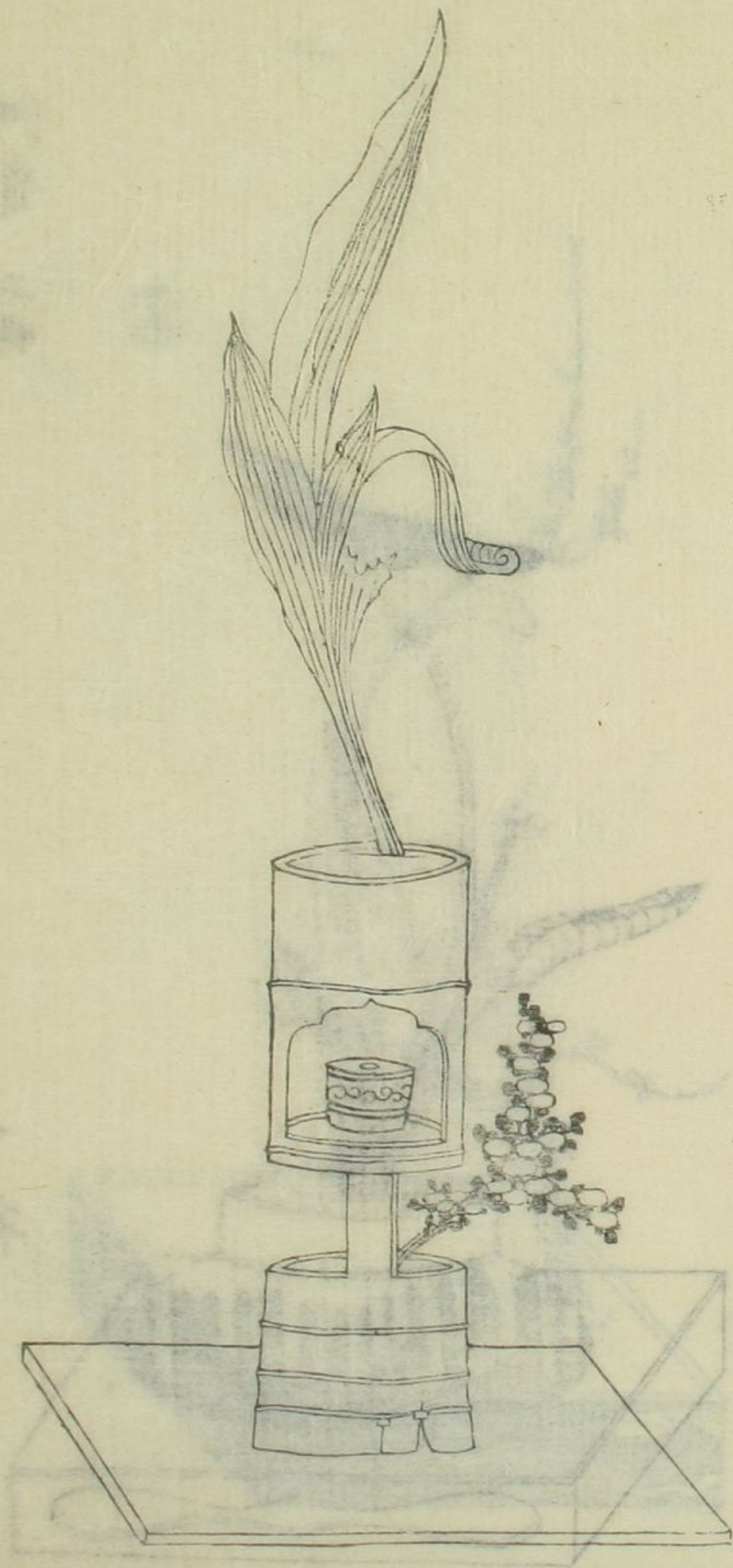


すゝき

山茶

菅家氏
里女
管集茶山





馬蘭
小菊

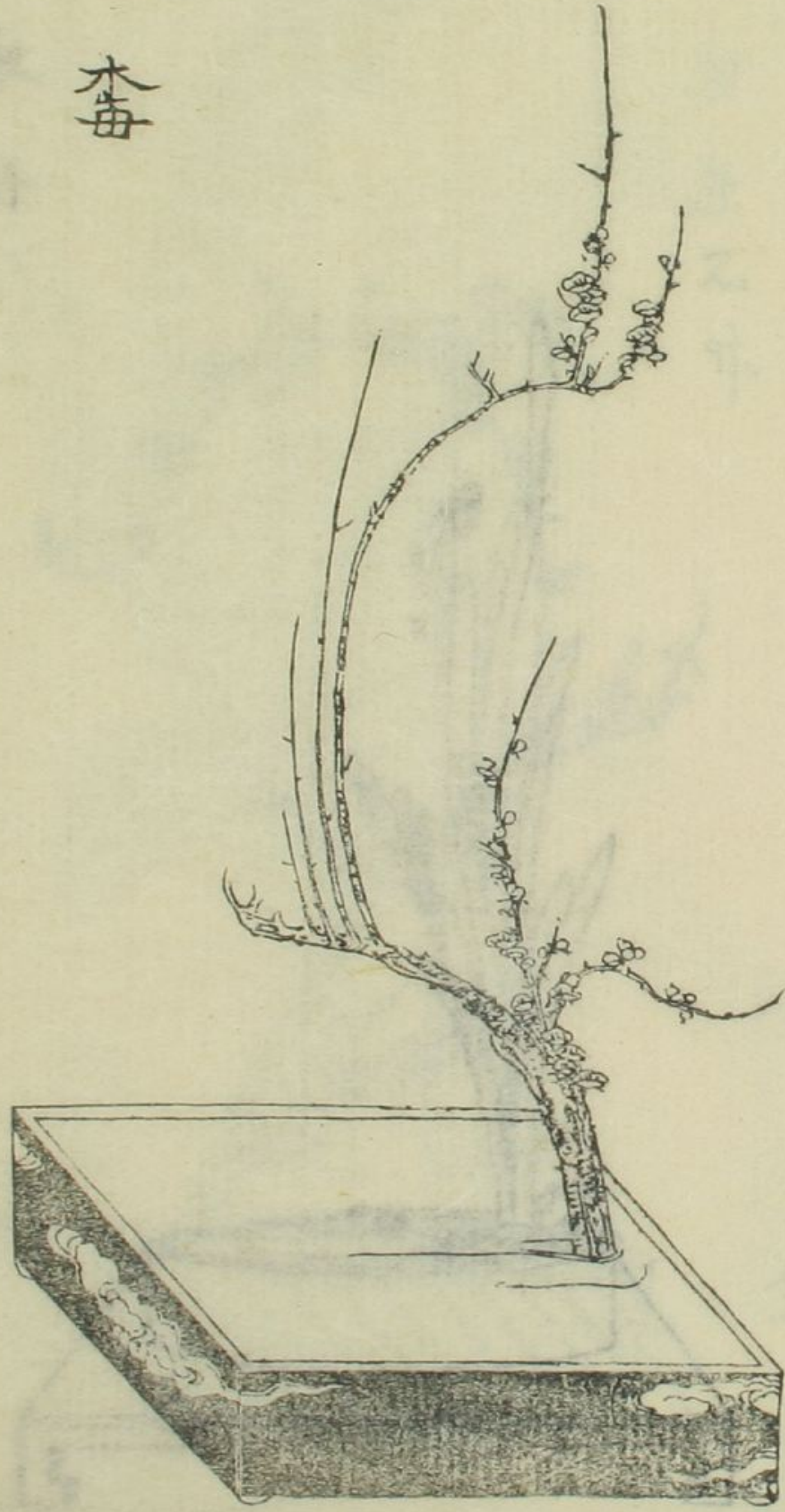
馬蘭 增原氏國女
小菊 一得



菴竹
芡小葉

全

木苗



宇和島
増原紫山

年
七

河骨二株

魚蘭二株

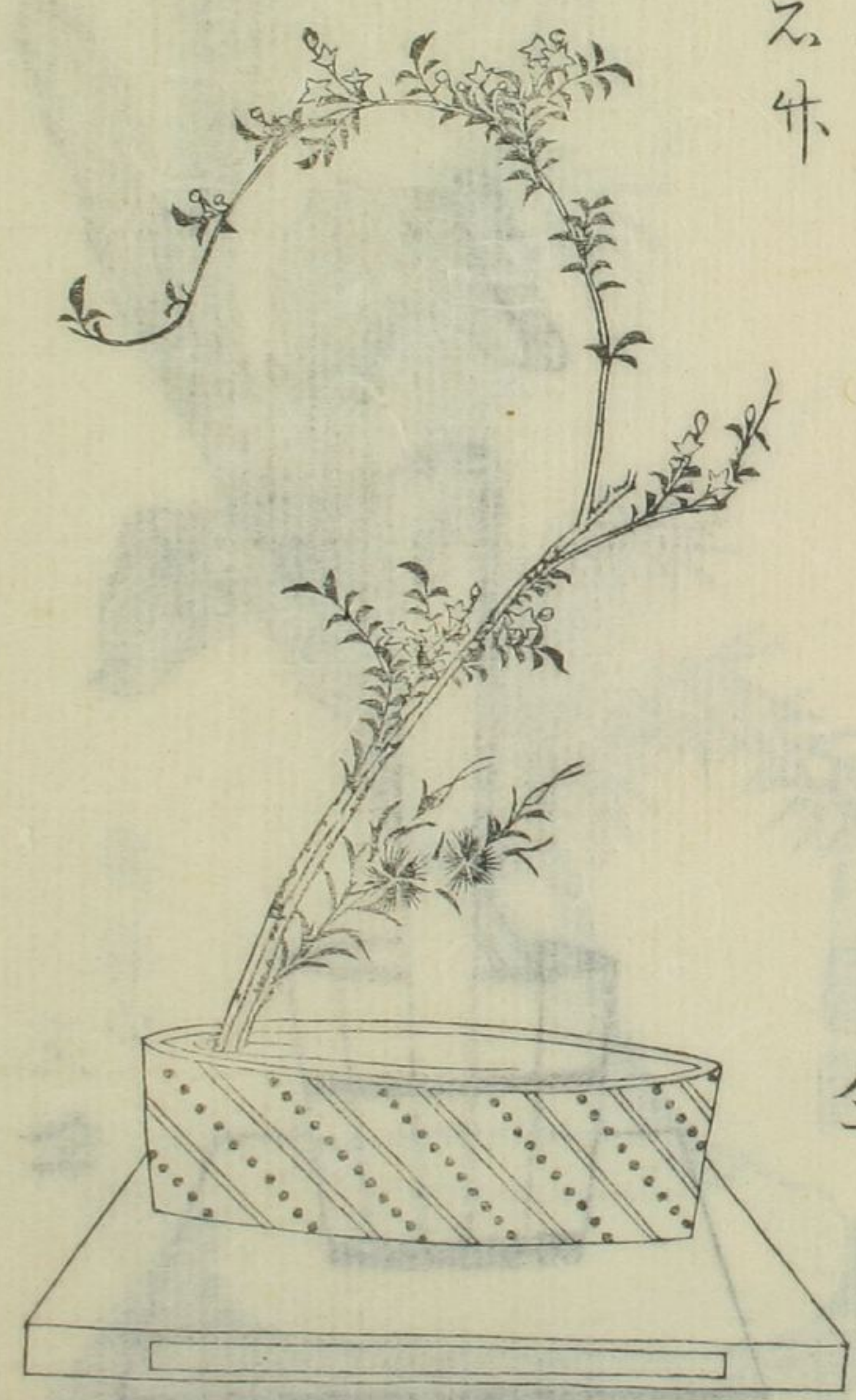


一得

魚蘭
二株

年
七

牙乃花
遊其石竹



全

水仙



全

竹

かきつばし

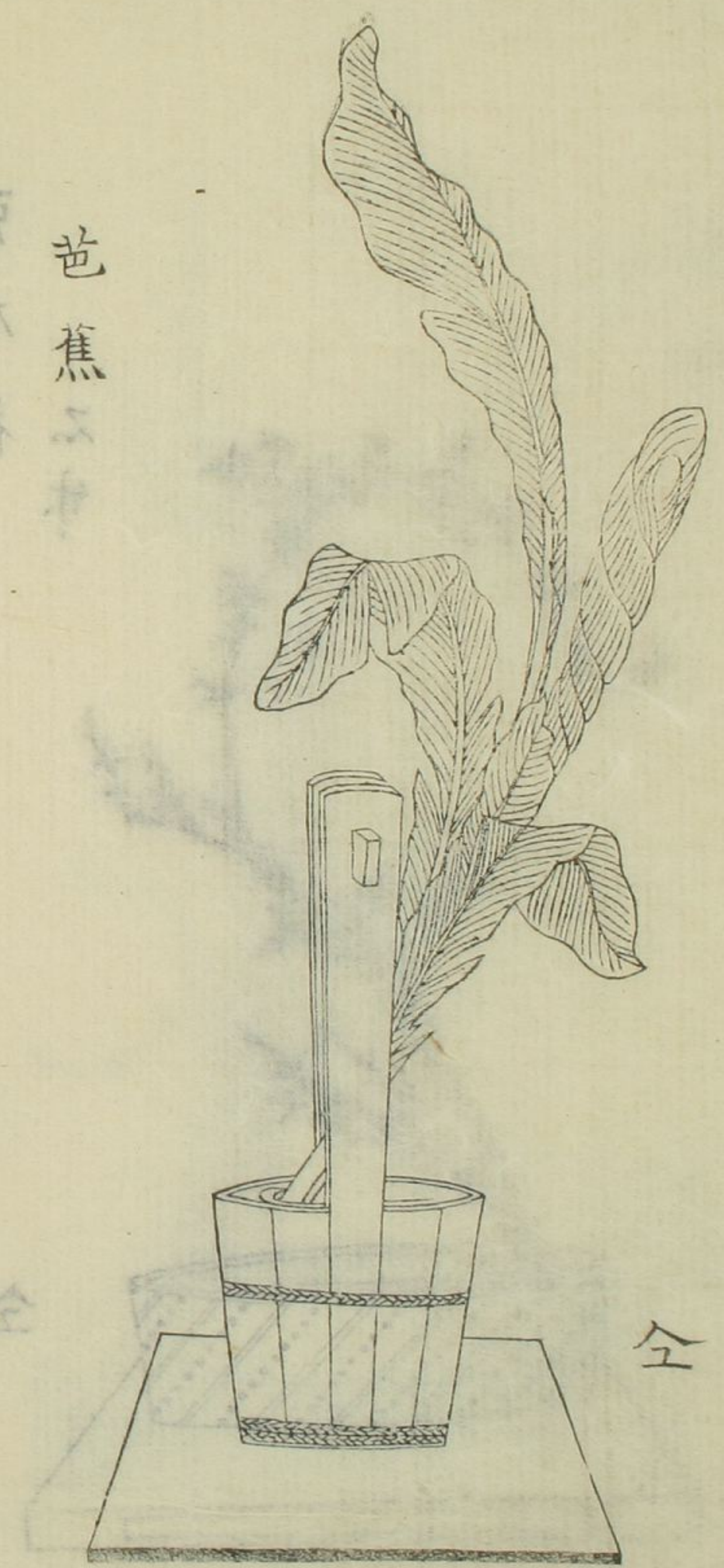
壽福山
文除



芭蕉
の
山

全

全



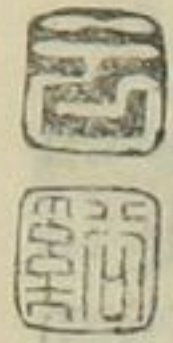
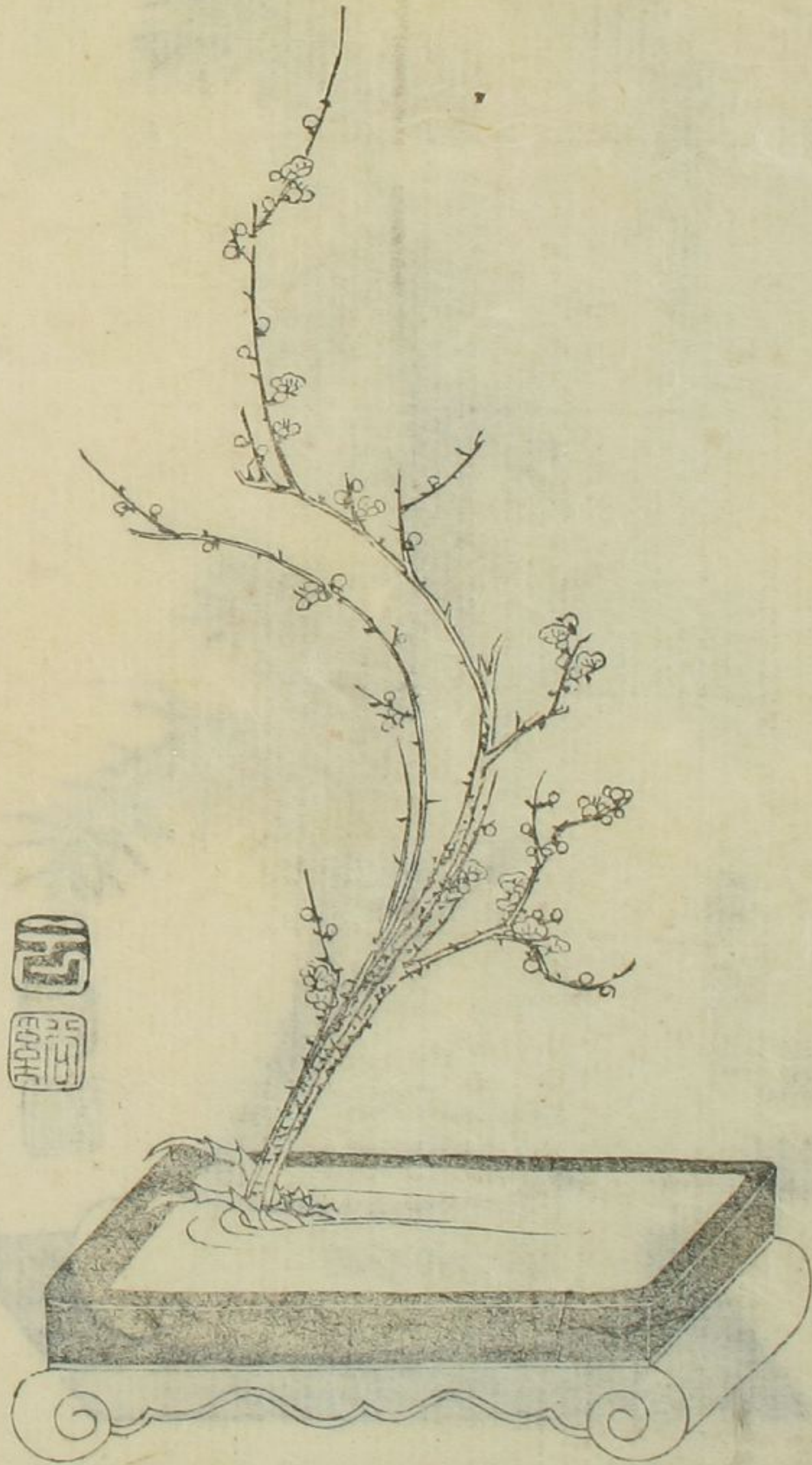
壽福山
文除

梅
嬾



全

杏



全

蓮

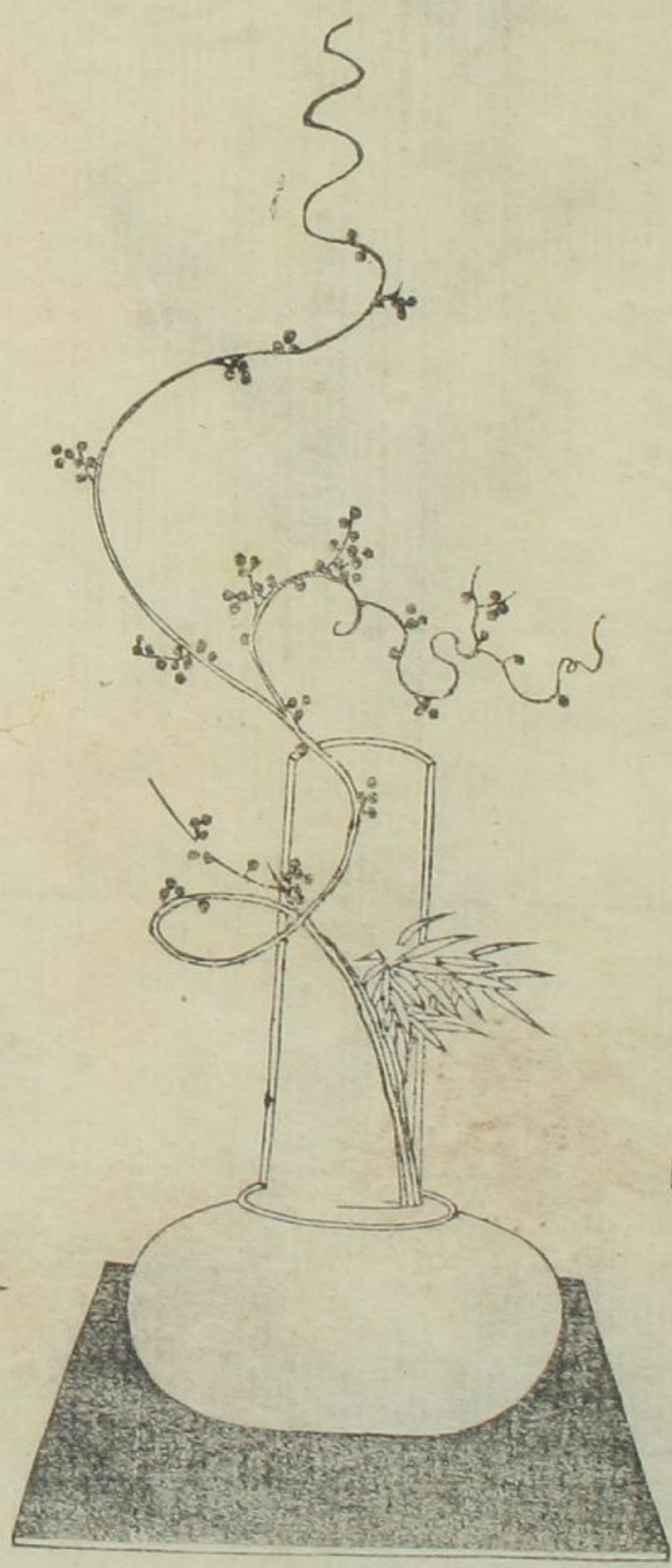


山下幽飲

三
七
五

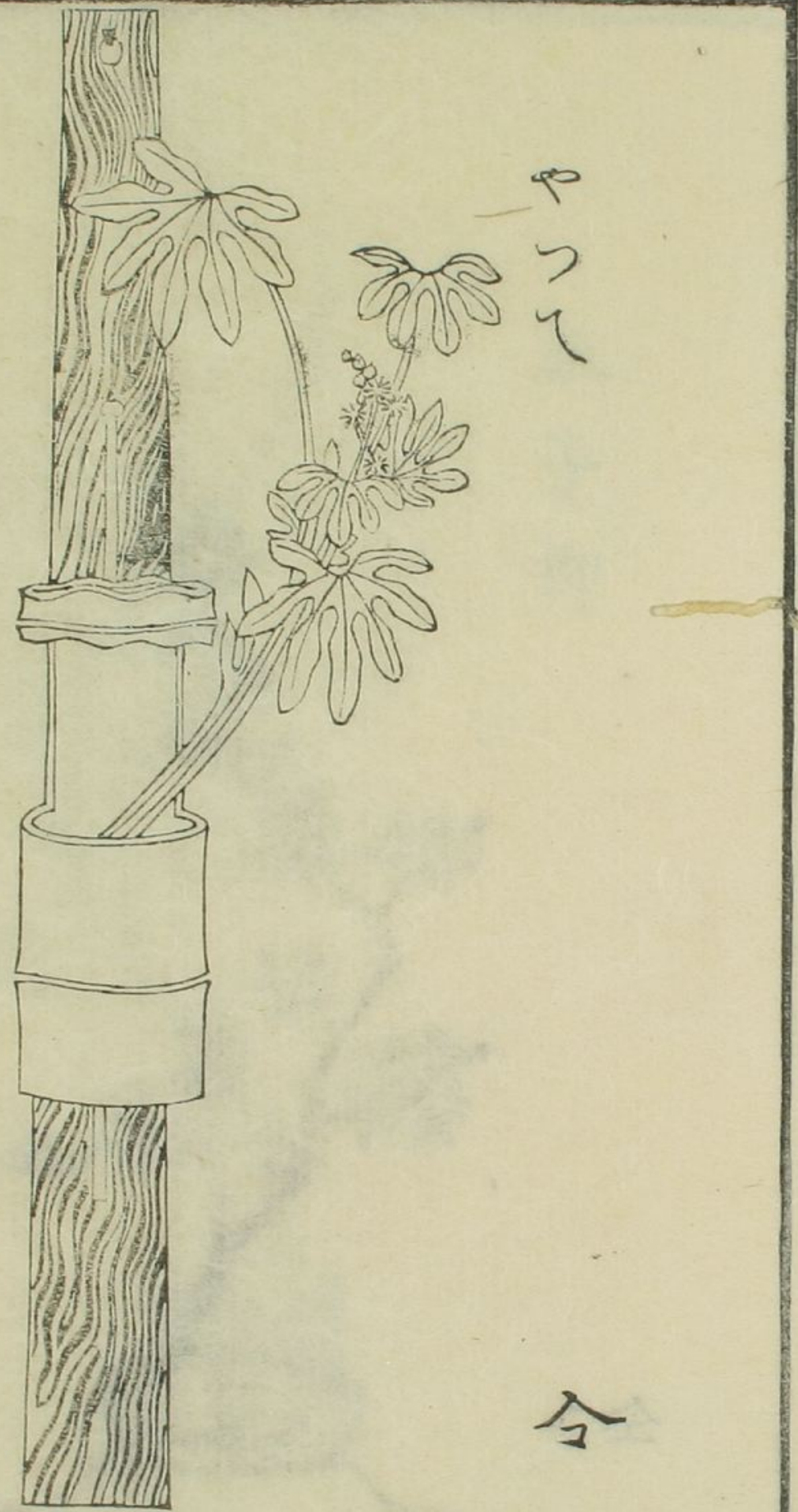
蔓
草

蔓草
古
々
き
招
笈



全

三
七
五



や
つ
し

今

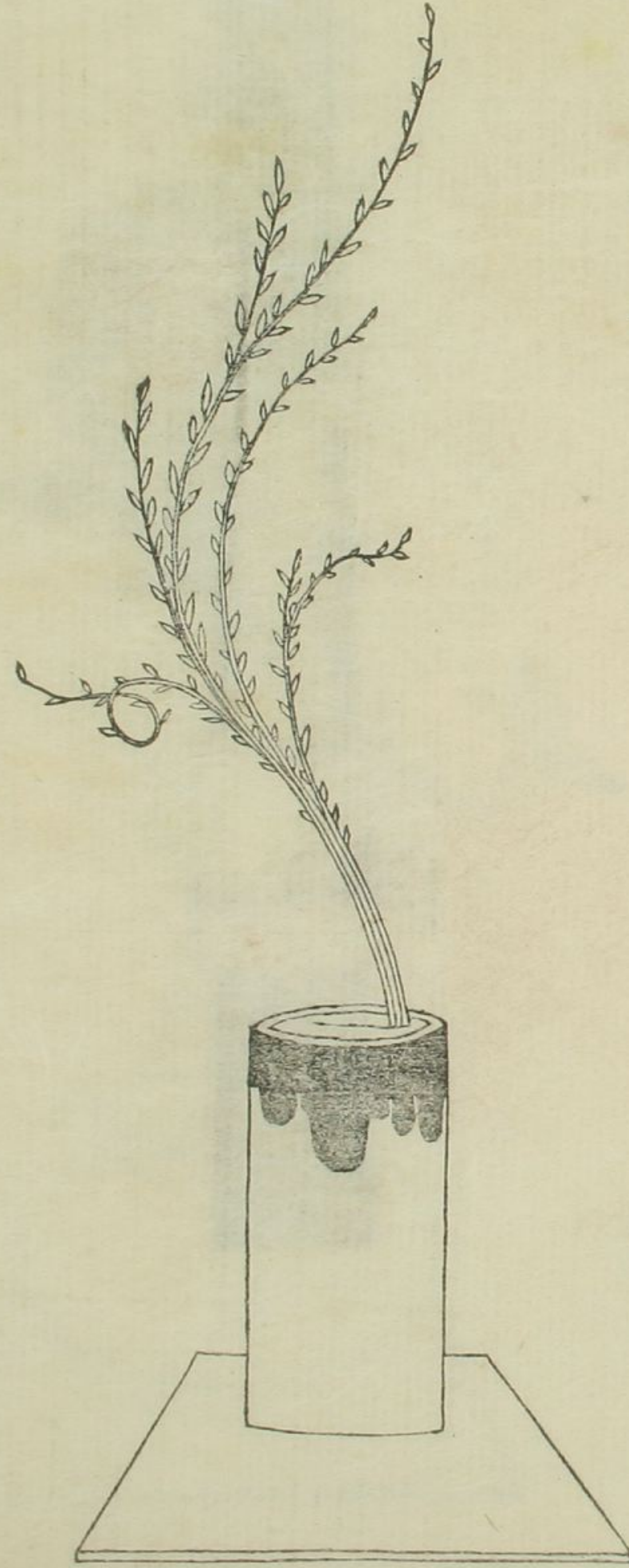


あ
き
し
し

今



永子柳

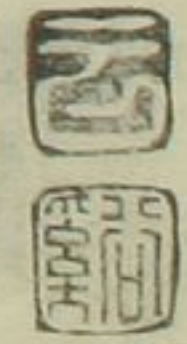


布翫兔

梨花



全



七五

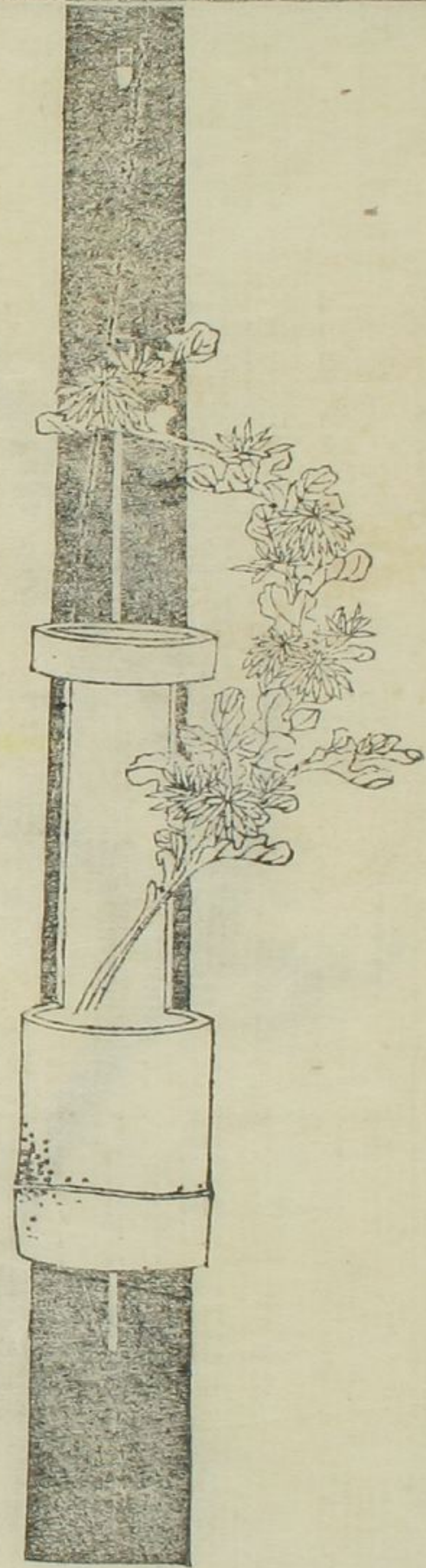
年五

山午房



全

赤中象

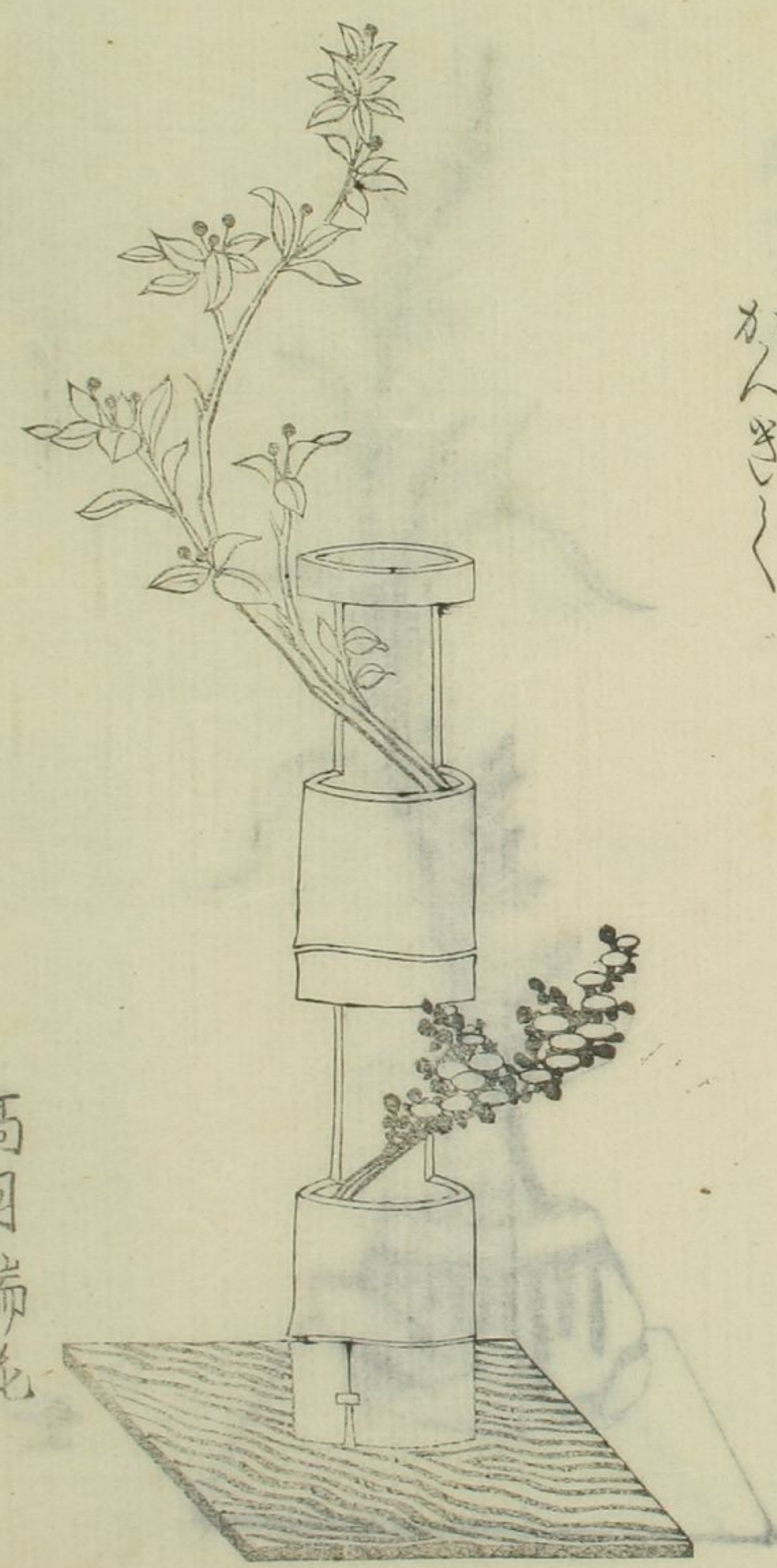


全

生口
七六

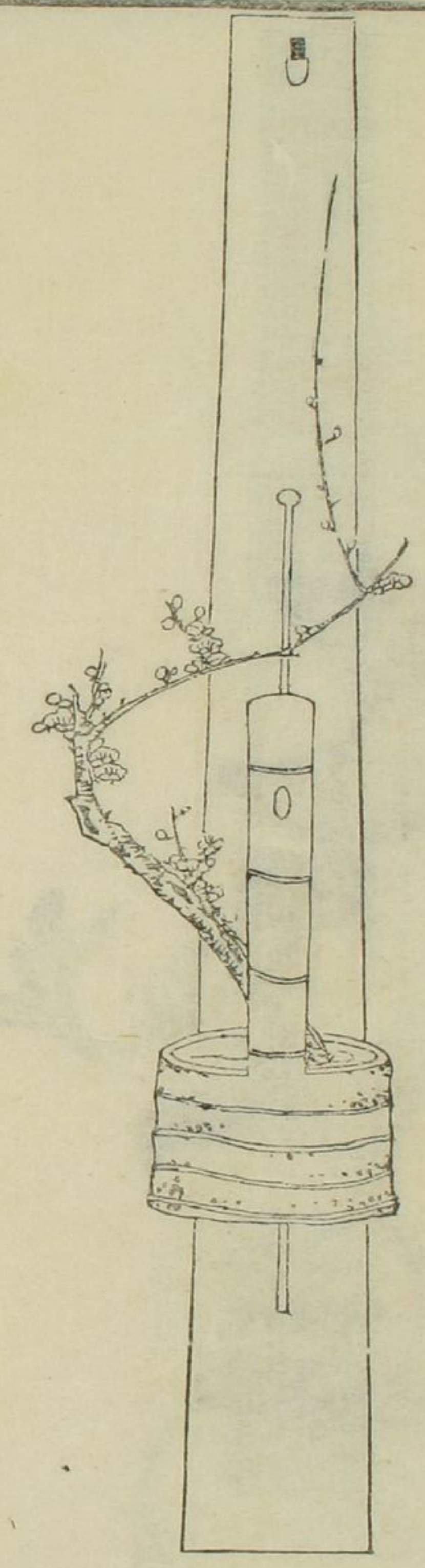
生口
七五

高月端花



香木
かんきく

白梅



全

燕子花



全

香木

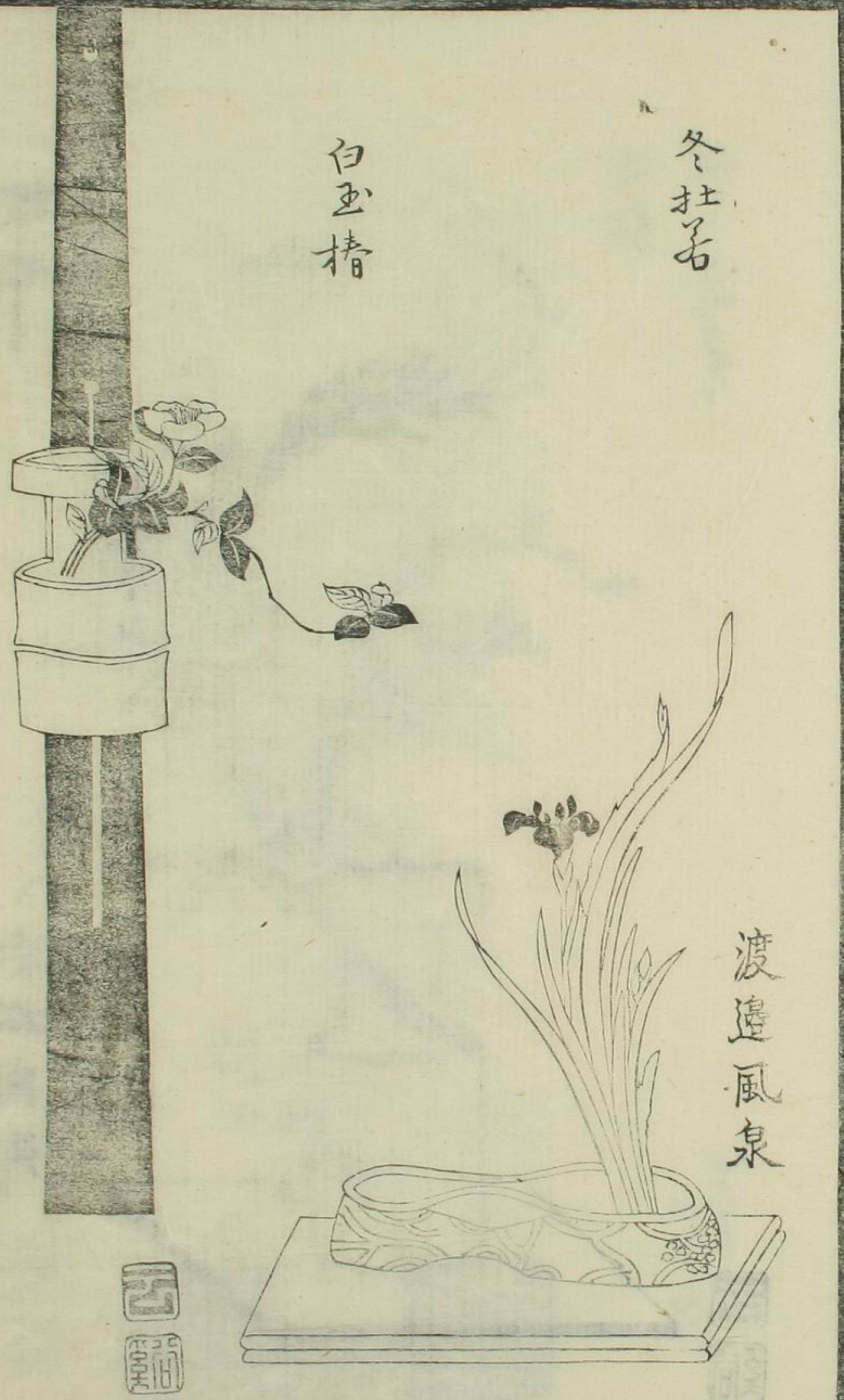
よ
ふきく



全

冬牡丹

白玉椿



渡邊風泉

渡邊自生



燕石

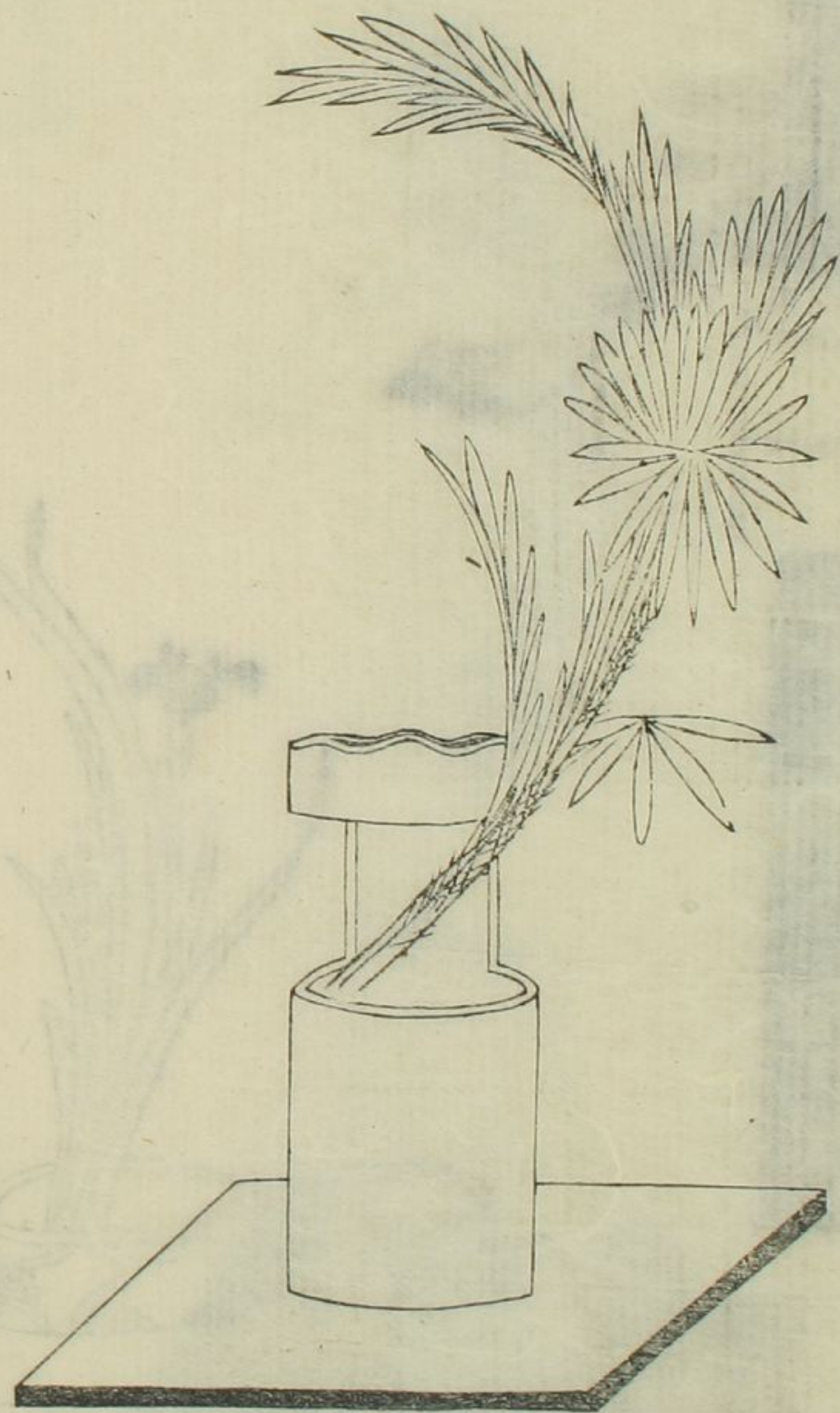
古之文也



全

年
月
日

撥休



赤松南郷



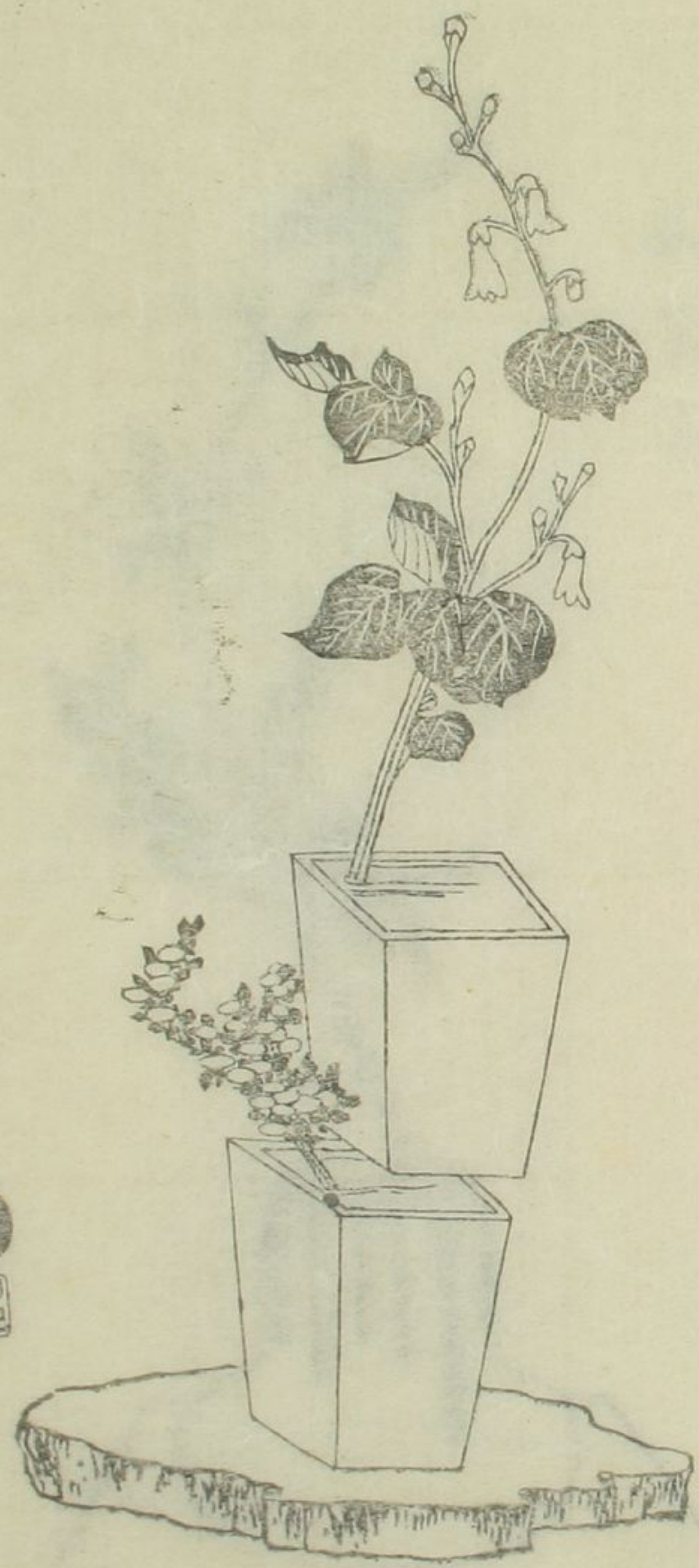
梅
白棲



金仙花

主及左所
安並孤竹





秋桐

黄小きく

蔣淵山
照月



白
仙
葵



武田不美



花菅蒲

金谷羽雪



仙蓼

兵頭龍化

林林

黃小



山

金中
四十一

車心三光



僧坡月



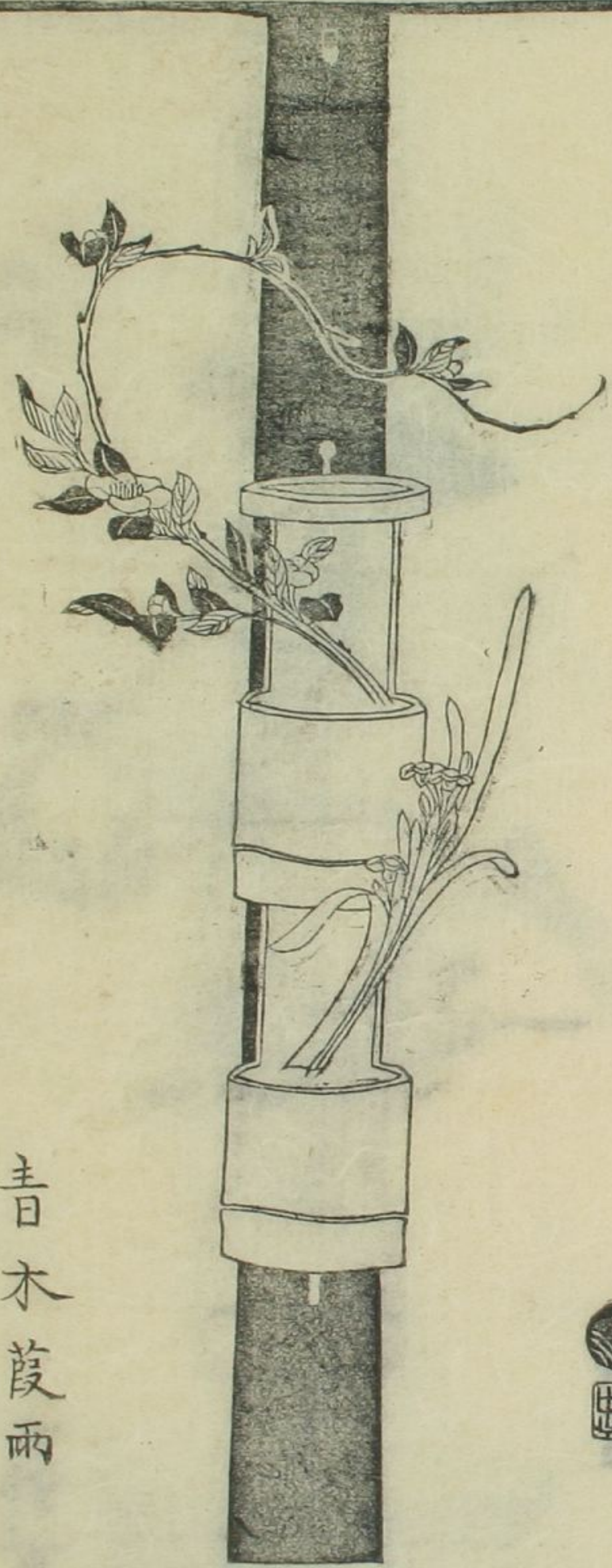
花菖蒲



金谷伴雲

兵頭千里

筆中



椿
水仙

吉木葭兩
同氏
伊久女



人參花

全



生中
四



芭蕉

金谷二橋

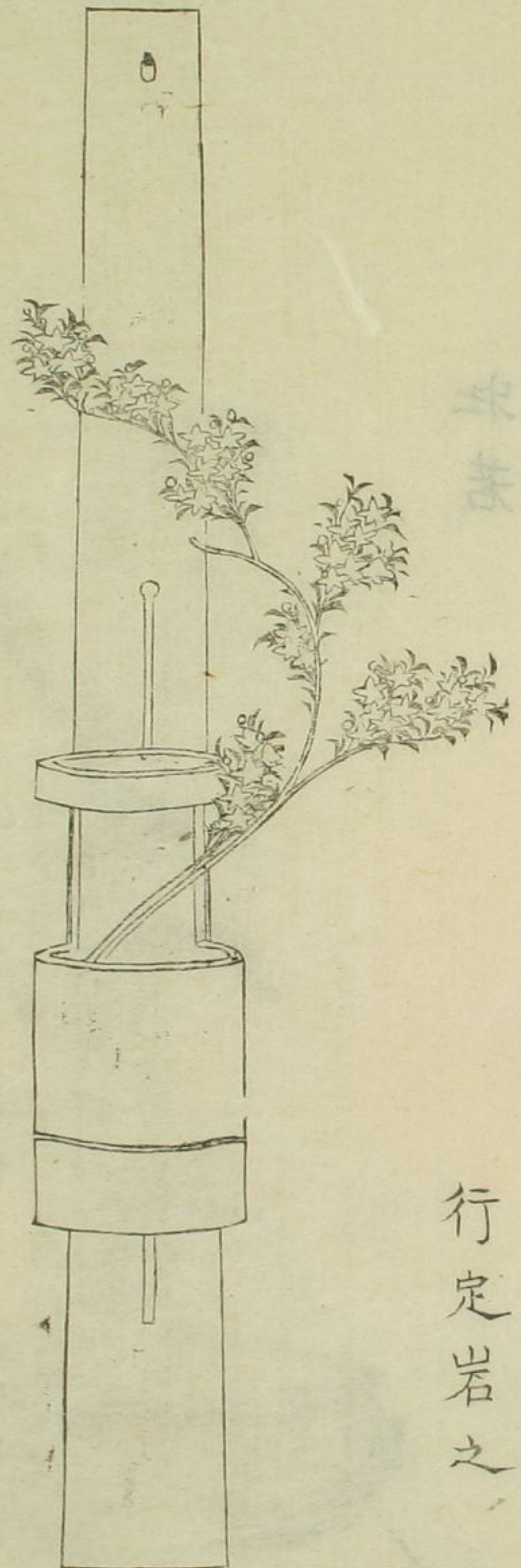


招仙水

古野女
毛利後月

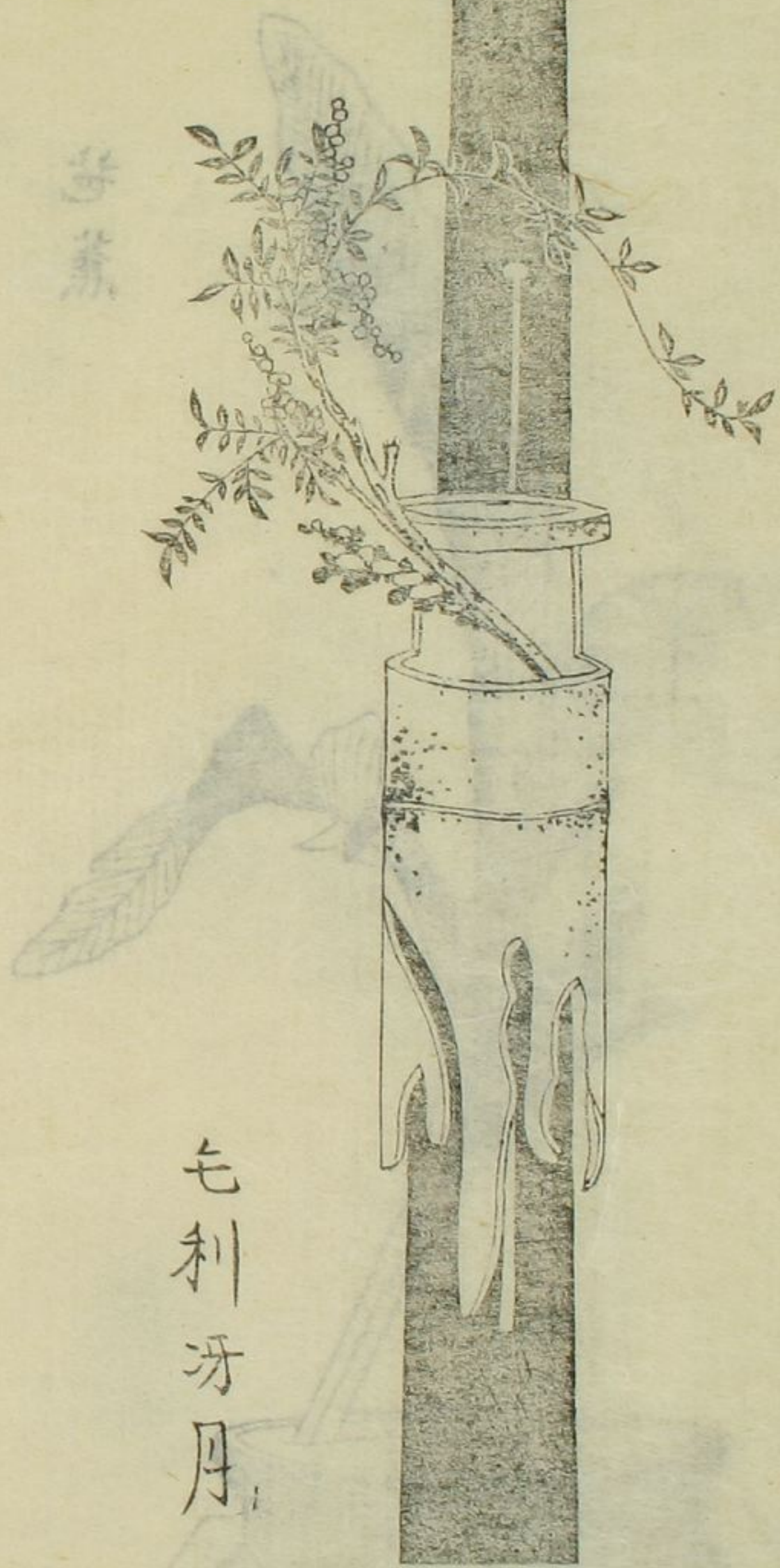


白丁花



行定岩之

海蕉



南天

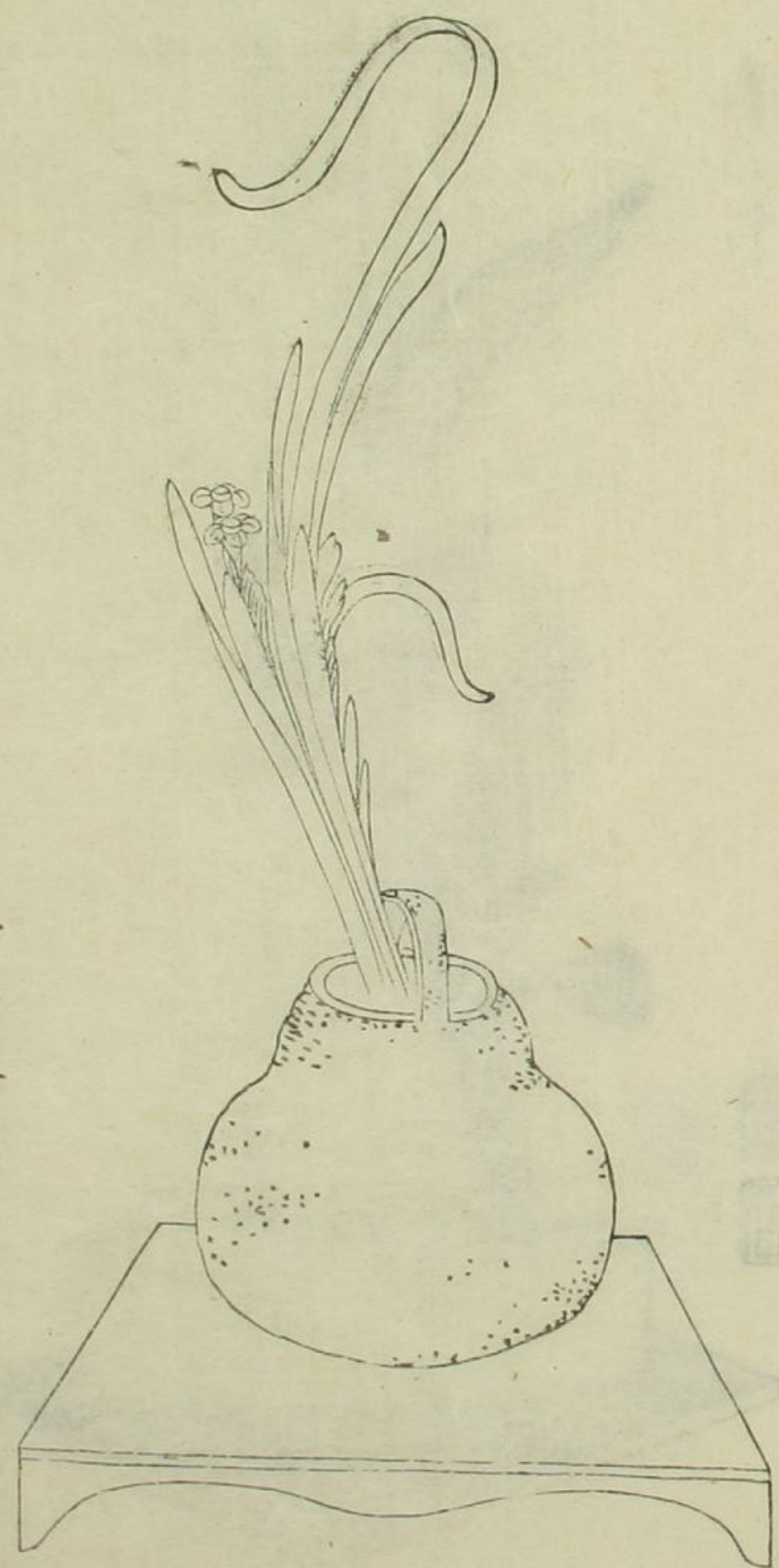
黄小

毛利牙月

白丁花

南天

水僊



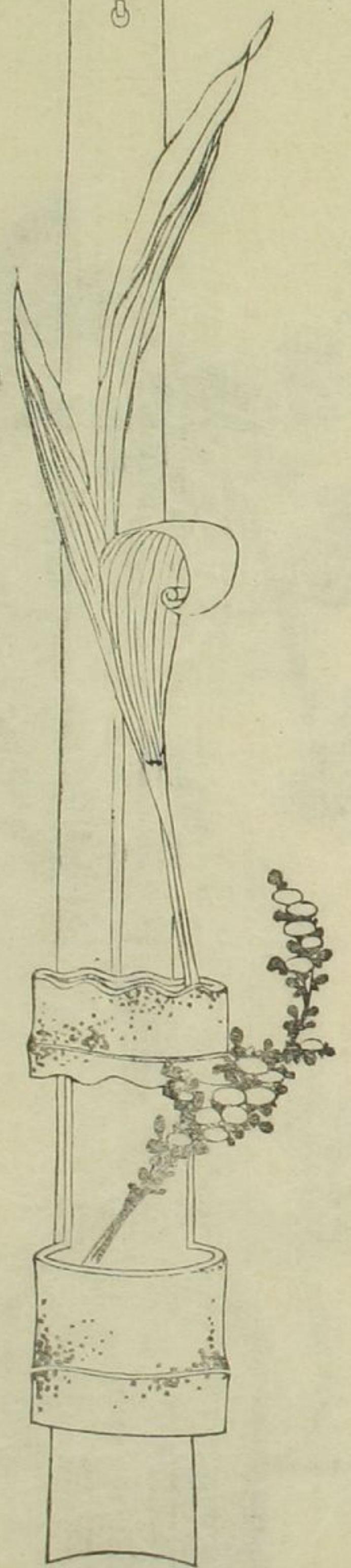
玉陽佐川
桑名布金



牡若



大野執方梢



馬蘭
赤小きく

布金



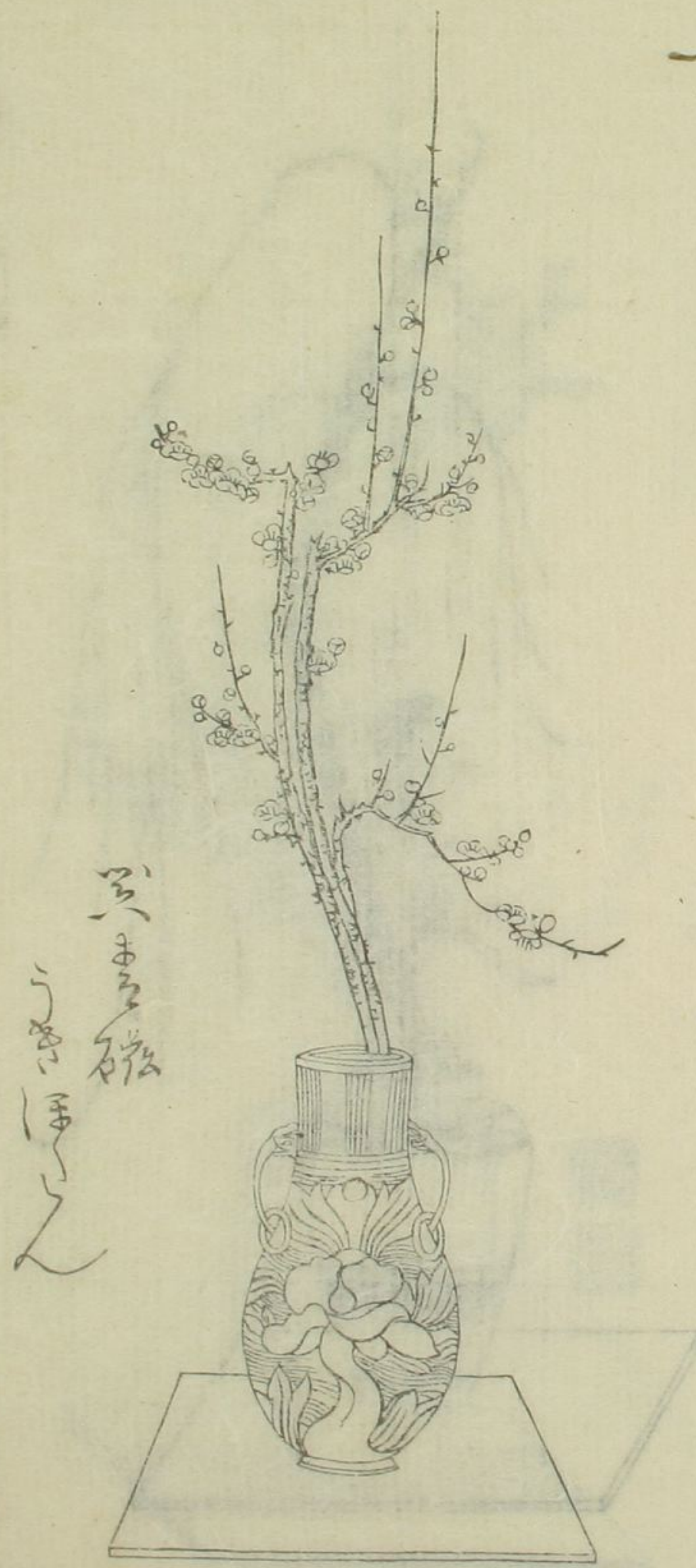
河骨

清家媒風

水哥



白梅



我

平井氏女



平井氏女
外女

平井氏女



白梅

品
南魚大白



全

平口
五十一



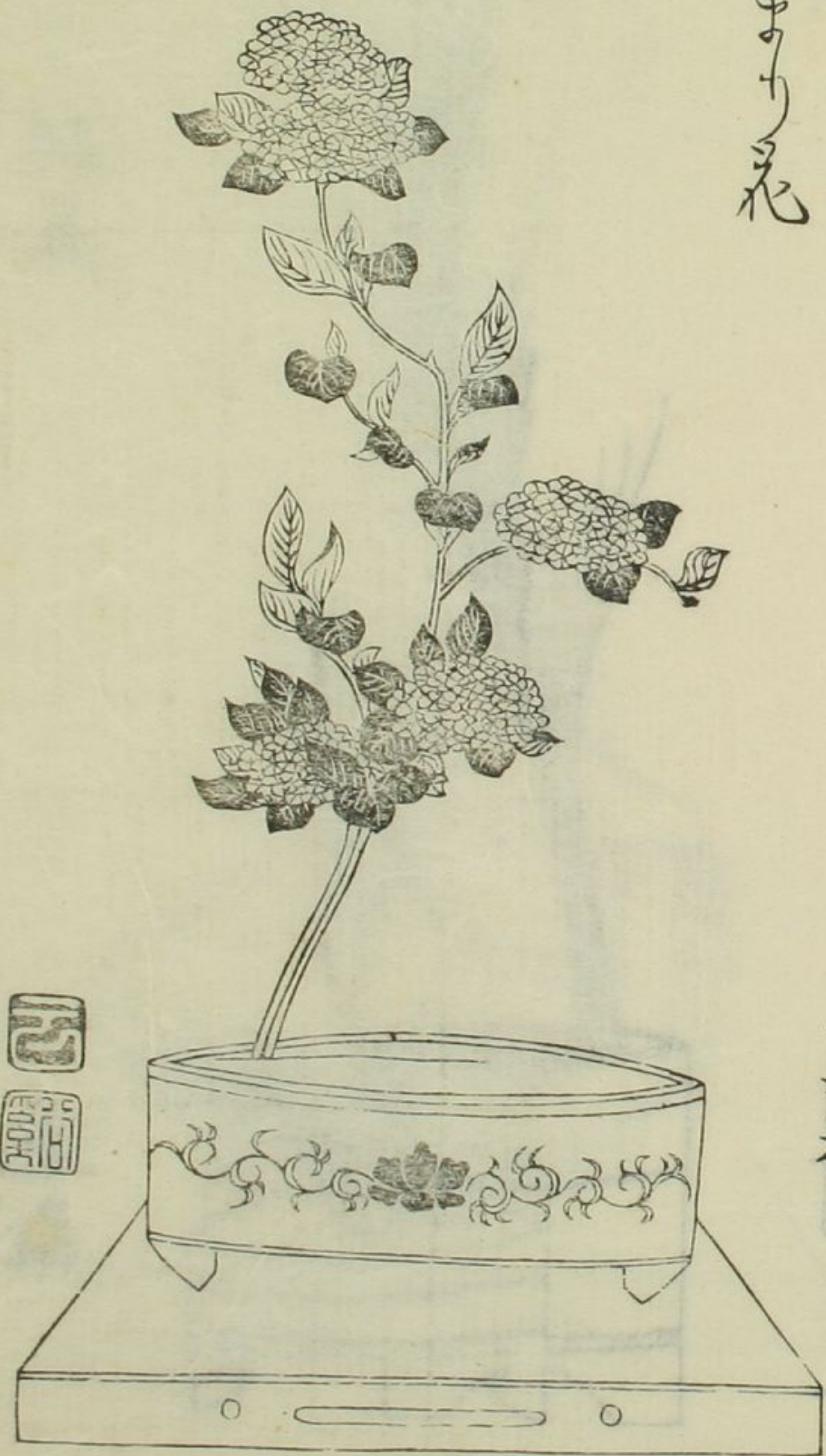
柳水仙



誓

平口
五十一

てまり花



土左川
惠澤楚狂

梅



三陽
いろく樹

卓和島
紫燕居一消

三十一

水仙



王及左川
堀見商陸

不知名
杜若

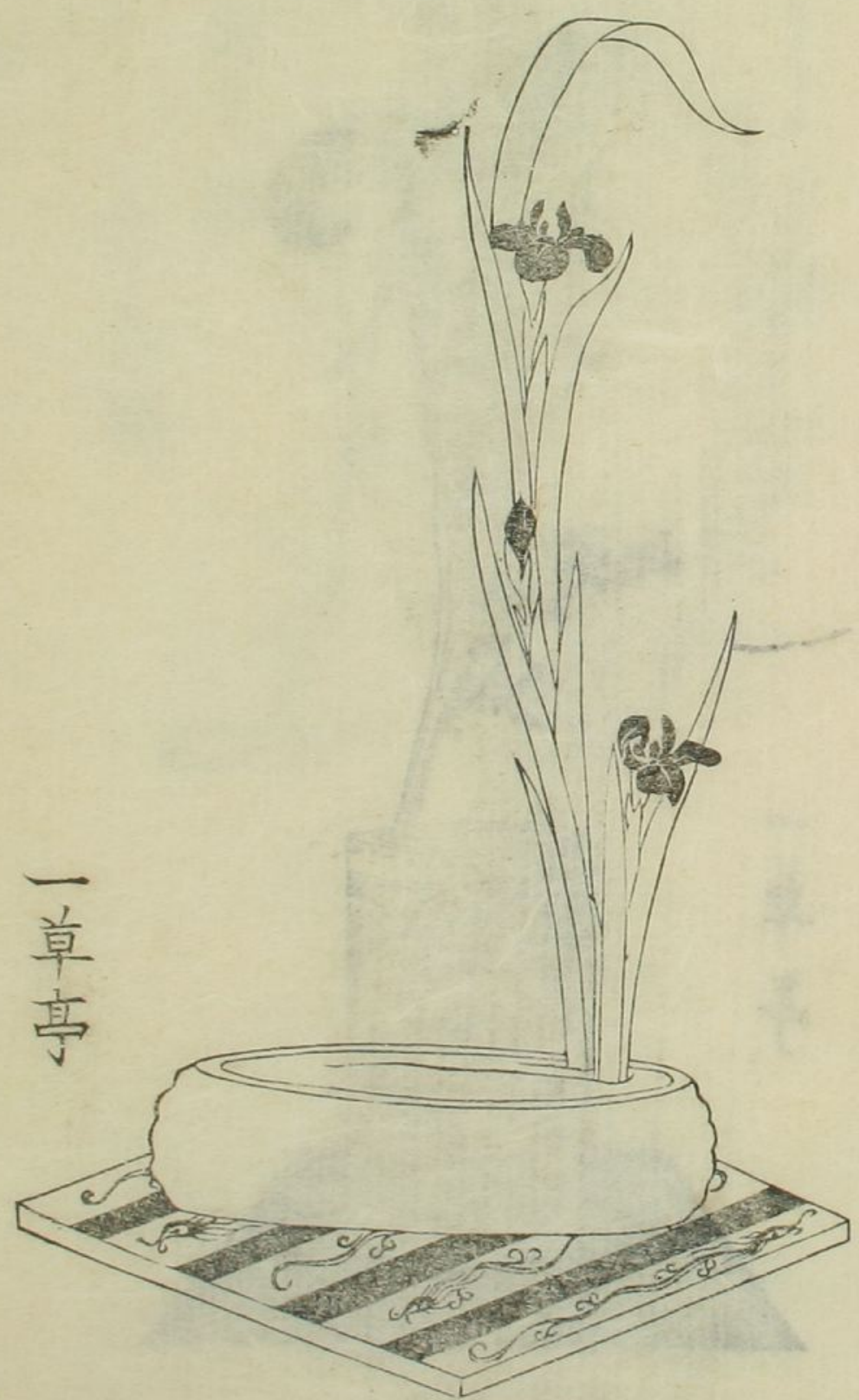


高月氏女
花縫



三
五二

牡若



一草亭

香古
五回

水山



梅嫌

山茶花

土及左川
植野花衆

年中
五三

麿白梅
しんり石梅



新
香木

全

馬
菜

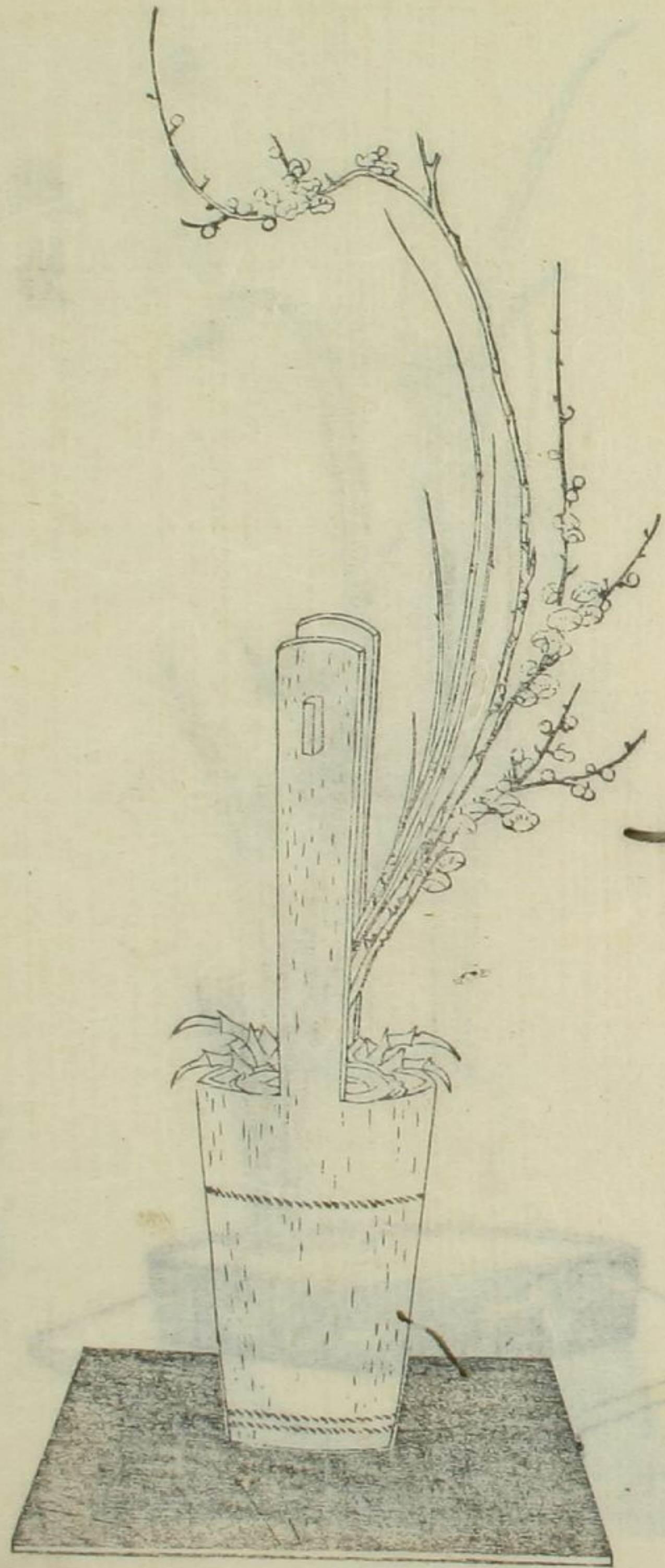


一
草亭

自
影

馬
菜

梅



高月氏女
泉里

年
五
六

藤
青木



一
消

年
五
五

燕子花



月光齋
布金

二齋

一
年
中
五
下

杜若



全

五
六

五高



二橋

美名は蘇合を二善一悪に
難儀ありて柔を世の伴に
以ててはふたけありて
此道平しおとハ又

身は平し

身は平し

身は平し

五月高



五高

五高

諸木枝朽を純松依く親ふる月日我
 菜の花や一糸良乃都一結粒口
 梅尔為るき月申人可梅腫あり
 柳一弱き雨と成り梅乃花
 つぶるゆえたりと 送也 送の雪
 紅雲や居風片の火乃窓のり
 花不暮る野に官邸の人
 うららるる矢射のハ 今朝の春
 雪不入鳥氣ゆ 青紫山
 落る花不地も 柳の枝を
 午や大佛殿ハ 柳の枝を
 散る花朽れ人となり 寐たりは程

文化九〇と云ふ 某月某の日の前二十夜三亭梅松竹花祝巻と云
 五々々の題をまうおきながら人々が小主人詩ふは佛遊りて人切り
 まあ〜 書をのひたを正復ももて人のをより小のさしひあを
 乃れいあ〜〜〜

二宮正復

一 女乃を 打てかさき 村肝乃 人を
 二 不はらふ ぬち紫を 柳の枝を 己手
 三 志しはら 柳をむもの 柳の枝を 世の
 四 杯もころふ ぬち思人 柳の枝を 何れ
 五 侍勢あふや 茶の浦梨 柳の枝を 何れ
 六 何き人 春田圃 柳の枝を 何れ
 七 何き人 春田圃 柳の枝を 何れ

活花好めの人乃六十尔

初何

鏡より活花は西学廿九色多し哉 芳直
 むらあはれ後のちりや 幾 去 芳栄
 層も百くあふひのう急まききり 保造
 日とり 初のめく新館のときり 嵩
 月影や 約藤は外山に映らん 初克
 寺の引 芳もそくもあうあう 意佳
 数ふくくあうとふくうとまうりふ 敬忠
 往來もまきねるうりくくの来 尤忠
 水ももみむはひりて水居く 實任
 古きひうちなるう鏡は青あひ 花草

下畧

年 中 三

早稲田大学図書館

011688995029